

第 6 章

地域別構想

- 1 地域区分
- 2 各地域のまちづくりの目標

西小学校区、東小学校区、北小学校区
南小学校区、相野山小学校区
香久山小学校区、梨の木小学校区
赤池小学校区、竹の山小学校区

序章 計画の中間見直しにあたって

第1章 現況特性の把握

第2章 都市づくり上の課題の整理

第3章 都市づくりの理念と基本目標

第4章 将来都市構造

第5章 都市づくりの方針

第6章 地域別構想

第7章 計画の推進に向けて

第6章 地域別構想

地域別構想は、全体構想で示した都市づくり方針等を受け、地域の特性やニーズに応じ、市民と行政との協働による身近なまちづくりの取組みを加え、地域らしさのあるまちづくり方針を定めます。

なお、地域別構想の検討にあたっては、「地域別ワークショップ」を開催し、地域住民とともに、地域のまちづくり取組みアイデアをとりまとめました。また、ワークショップに先立ってまちづくりへのアンケート調査を行い、市民意向を把握しました。これらの意見等を参考としながら、全体構想との整合性や実現の見通しを踏まえて、行政計画として位置づける項目を抽出・整理し、地域のまちづくりの方針として、とりまとめました。

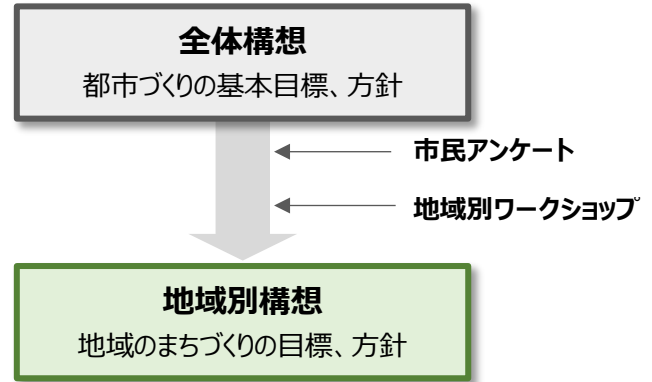


図 6-1 地域別構想の検討フロー

1 地域区分

地域区分は、地域の実情を踏まえられるように、以下の図 6-2 に示す 9 小学校区(2020 年(令和 2 年) 4 月現在)とします。

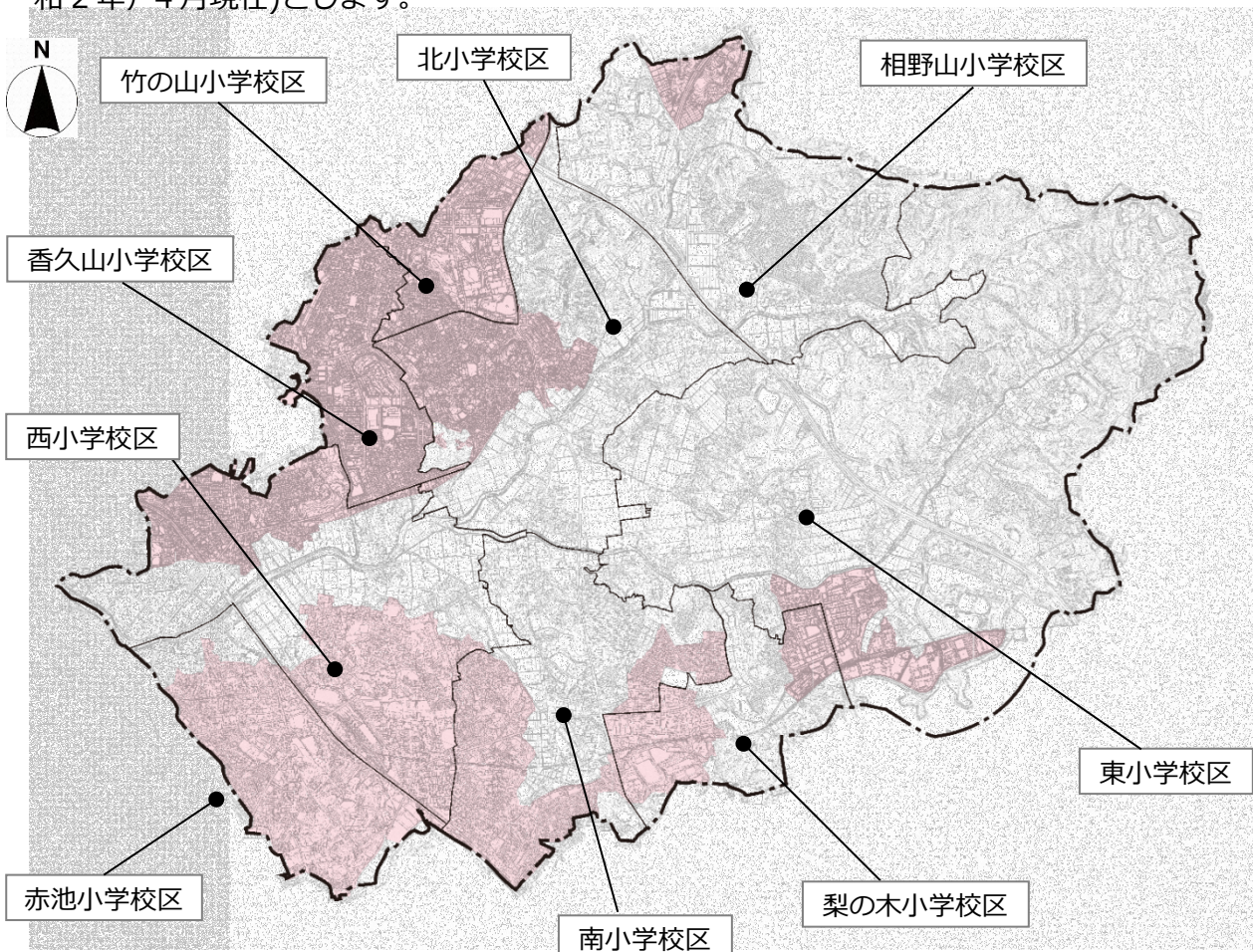


図 6-2 地域区分

計画策定時(令和 3 年 3 月)の小学校区において策定しています。

2 各地域のまちづくりの目標

各地域におけるまちづくりの目標については、全体構想における都市づくりの基本目標や地域の概況、特徴を踏まえ、以下のとおり設定します。

表 6-1 地域のまちづくりの目標

地域区分	まちづくりの目標
西小学校区	地域の良好な自然環境と古くからある地域コミュニティや新たな住宅地が調和し、 <u>誰もが安心して暮らせるまち</u> を目指します。
東小学校区	豊かな自然環境を守りながら、都市機能の充実により生活利便性を確保し、 <u>市民がいつまでも元気に暮らせるまち</u> を目指します。
北小学校区	自然や歴史を大切にしながら、充実した都市基盤を活かし、 <u>広域から人が集いにぎわうまち</u> を目指します。
南小学校区	多くの公共公益施設を利用する市民や来訪者の交流を促進するとともに、地域に点在する自然に気軽にふれあい、 <u>様々な交流が生まれるまち</u> を目指します。
相野山小学校区	本市の新たな玄関口にふさわしい新しい魅力づくりを進めるとともに、自然や大学といった地域の資源を活かしたコミュニティを維持することにより、 <u>新しさとなつかしさの両方を感じられるまち</u> を目指します。
香久山小学校区	成熟した都市機能によるコンパクトにまとまった生活圏を維持することにより、 <u>どの世代も快適に暮らし続けられるまち</u> を目指します。
梨の木小学校区	駅を中心とした生活利便性の高いまちづくりを進めるとともに、歩きながら自然に気軽にふれあい、 <u>地域の交流にあふれるまち</u> を目指します。
赤池小学校区	交通利便性を活かし広域からの来訪者の交流を促進するとともに、都市基盤施設の充実や住宅地整備を進め、 <u>西の玄関口としての魅力にあふれた快適なまち</u> を目指します。
竹の山小学校区	充実した都市機能と多くの人が集まる魅力を活かし、 <u>活気があふれるまち</u> を目指します。

西 小学校区

(1) 地域の概況

地域内の市街化区域と市街化調整区域の面積は、ほぼ同じであり、市街化区域は、北部と南部に2分されており、南部は赤池駅東側の既成市街地が中心で、北部は道路等の都市基盤が整備された住宅市街地が中心となっています。南北の市街化区域の中間にある市街化調整区域は、東西方向に天白川が通る農地を中心とした土地利用となっています。

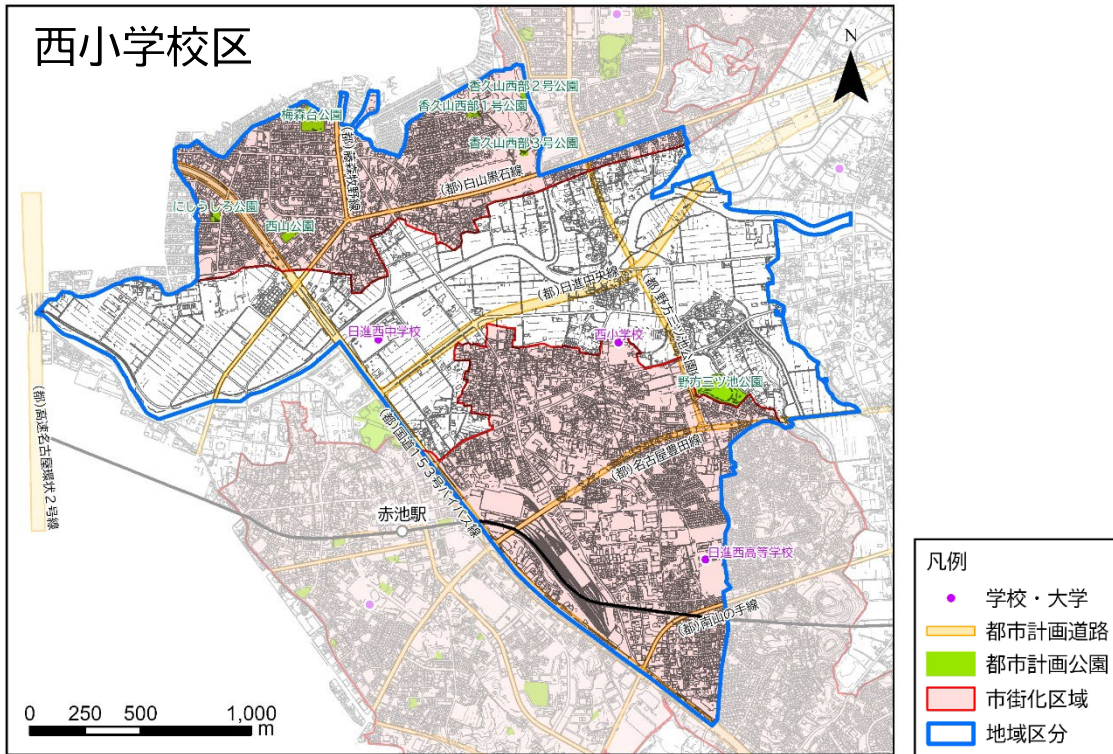


図 6-3 西小学校区の現況図

地域内の人口密度は、市街化区域内である北西部の梅森台と赤池駅東側の市街地で高く、中央部の市街化調整区域は低い状況にあります。

また、市内の他地域に比べると、全ての年齢層において人口が増加しており、なかでも18歳以下の若年層を中心に人口が増加しています。

表 6-2 西小学校区の概況

面積 (ha)	476.47	市街化区域 (ha)		人口密度 (人/ha)	29.43	
		市街化調整区域 (ha)	223.24			
人口	2019年 (人)	2022年 (人)	年齢比(2022年)		増減率(2019年-2022年)	
			西小学校区	市全体	西小学校区	市全体
0~18歳	2,508	2,776	19.8%	20.3%	10.7%	0.5%
19~64歳	7,931	8,334	59.4%	59.5%	5.1%	2.4%
65歳以上	2,775	2,912	20.8%	20.2%	4.9%	3.9%
合計	13,214	14,022	100.0%	100.0%	6.1%	2.3%

(資料: 人口/日進市資料 面積/図上測量による)

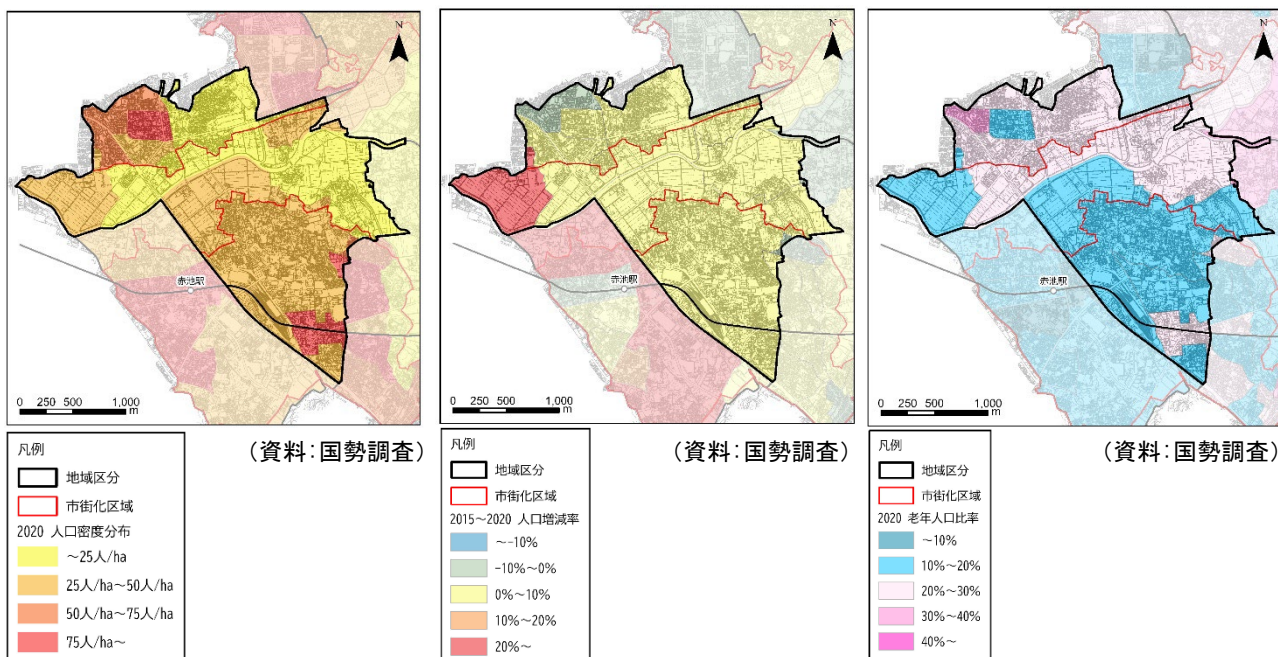


図 6-4 2020 年人口密度分布

図 6-5 2015 年～2020 年人口増減率

図 6-6 2020 年老年人口比率

(2) 地域の特徴

地域の魅力や資源である「強み」と、地域の問題・課題である「弱み」を把握するため、市民アンケート調査及び地域別ワークショップにおいて意見を伺いました。

【強み（魅力・資源）】

- ・ 鉄道や幹線道路が整っており、交通の便が良い。
- ・ レトロ電車館等のめずらしい施設が立地している。
- ・ 年配の方と子どものコミュニケーションがとれる等、地域のつながりがある。
- ・ 河川や池、田等の自然が多く残っている。
- ・ 野方三ツ池公園をはじめ、多くの公園がある。 等

【弱み（問題・課題）】

- ・ 自動車の交通量が多い道路において渋滞が多い。
- ・ 店が少ないので、買物が不便である。
- ・ 河川氾濫等の災害時に安心して避難できる場所がほしい。
- ・ ボール遊びができないといった公園の規制が多い。
- ・ 河川の環境が悪化してきている。 等

(3) 地域のまちづくりの目標

本地域は、東西に天白川が流れ、両岸には豊かな農地が広がり、周囲には既成市街地や集落があります。また、地下鉄・名鉄赤池駅が近接し、計画的に住宅地や幹線道路等の都市基盤整備が行われています。

本地域では、地域の良好な自然環境と古くからある地域コミュニティや新たな住宅地が調和し、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

(4) 将来都市構造上の位置づけ

市街地ゾーン

- 市街化区域の縁辺部に広がる古くからの市街地については、良好な居住環境を有する市街地の維持・形成を図ります。
- 計画的に整備された市街地については、都市機能が充実した生活圏と、農業集落と調和した現在の土地利用及び居住環境の維持を図ります。

農地・農業振興ゾーン

- 天白川沿いに広がる農業集落は、現在の土地利用の維持・保全を図ります。

農地活用ゾーン

- 特色ある農産物を活かした観光振興に寄与する土地利用の形成を図ります。
- 現行の農地活用ゾーンとしての位置付けを維持しつつ、地域を取り巻く環境の変化や立地特性を踏まえ、今後の土地利用のあり方も検討します。

地域生活拠点

- 香久山西部地区については、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方を踏まえ、生活利便施設を中心とした暮らしやすい生活圏の構築を図ります。
- 居住誘導にも寄与する商業等の都市機能の維持・誘導を図り、都市機能の集積を図ります。

公共交通軸（バス）

- 公共施設が集積する市中心部と、鉄道駅を結ぶ東西方向の軸線として、公共交通軸（バス）を位置づけます。

水とみどりの軸

- 天白川及び河川沿いの農地等を水とみどりの軸と位置づけ、歩行者・自転車ネットワークとして地域住民の交流を促進します。

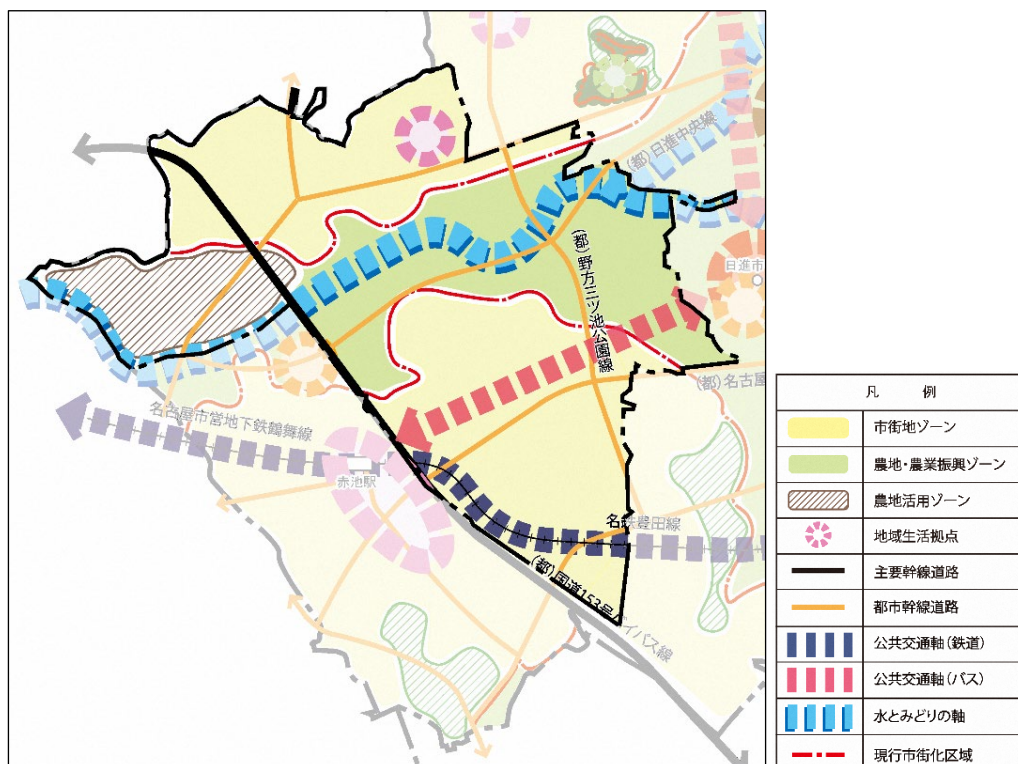


図 6-7 将来都市構造上の位置づけ（西小学校区）

(5) 地域のまちづくりの方針

ア 土地利用の方針

(ア) 市街化区域

低層住宅地区

- 計画的に整備された低層住宅を主体とした住宅市街地については、現在の居住環境を維持しつつ、周辺とのバランス・調和を図るため、低層住宅を主体とした土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持
- ・ 建築物の建替え時における形態意匠のコントロールを目的とした地区計画等の策定の支援
- ・ 香久山西部地区内の低層住宅地区は、着実な市街化を促進

中高層住宅地区

- 計画的に整備された中高層住宅を主体とした住宅市街地については、公共交通網の利用促進や多様な都市機能の集積によるコンパクトな生活圏の構築のため、中高層住宅を主体とした土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持

一般住宅地区

- 市街化区域の縁辺部に広がる農業集落を発祥とする住宅市街地については、農業集落としてのたたずまいを残しつつ居住環境の維持・改善を図ります。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持
- ・ 狭あい道路の多くみられる地区等について、基盤施設の整備・改善を図ることによる土地利用がしやすい環境の整備
- ・ 地区内の低・未利用地について、日常的な生活利便機能や、多様な世代のニーズに対応した居住機能に着目した土地利用の誘導

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 地域のコミュニティづくり

沿道住商複合地区

- (都)国道 153 号バイパス線沿道や (都) 白山黒石線沿道については、自動車でのアクセス利便性に優れ、沿道型商業施設の立地の優位性が高いことから、商業施設等を主体とした土地利用を誘導します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 沿道型の商業施設を主体とした土地利用に向け、原則、現在の用途地域指定を維持

住工複合地区

- 住工複合型の土地利用を維持し、今後の土地利用動向をみながら、適切な土地利用を誘導します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持

(イ) 市街化調整区域**農地・農業振興地区**

- 天白川沿いに広がる一団の農地と農地の中に点在する農業集落は、防災上及び都市生活を支える良好な自然環境の維持・保全の観点から、現在の土地利用を維持・保全します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 一団の優良農地について、原則、現在の農用地区域の指定を維持
- ・ その他の農地について、無秩序な都市的土地利用の進展を抑制

農地活用地区

- (都)国道 153 号バイパス線以西に広がるまとまった農用地は、洪水時の防災機能等多面的な機能を有していることから保全していくとともに、特色ある農産物を活かした観光振興に寄与する土地利用の形成を図ります。

なお、本地区は現行の農地活用地区としての位置付けを維持しますが、地域を取り巻く環境の変化や立地特性を踏まえ、今後の土地利用のあり方も検討します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 防災、農業や観光振興等の今後の動向を十分踏まえた規制・誘導施策を検討

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 誰もが便利な施設整備（農用地、農産物の活用の一環として）

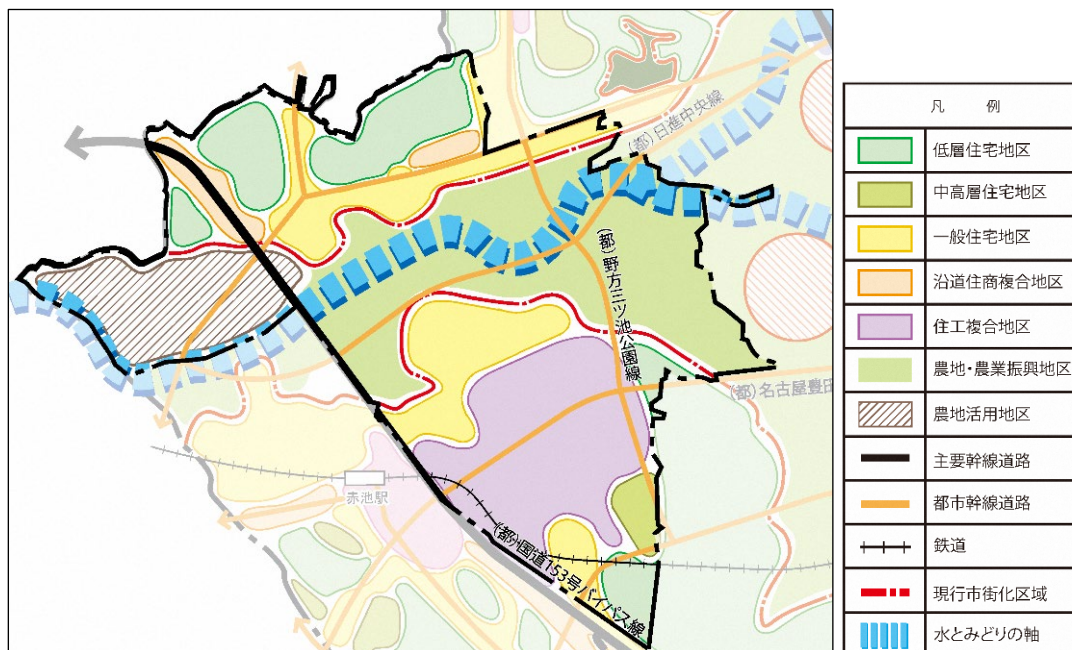


図 6-8 土地利用方針図（西小学校区）

イ 都市交通施設の方針

(ア) 幹線道路等

幹線道路

- (都)国道153号バイパス線は、適切な維持・管理が行われるように関係機関との協議・協力を図ります。
- 市街地相互の交通流動を円滑に処理するため、(都)日進中央線及び(都)名古屋豊田線の整備を促進し、(都)野方三ツ池公園線の整備を推進します。
- 道路舗装等については、長寿命化計画に基づき、計画的な修繕を図ります。
- 補助幹線道路については、都市幹線道路等を補完し、日常的な生活圏相互を連絡する役割を担う路線を適切に配置し、整備を推進します。

☞関連するWSの取組みアイデア ・渋滞対策

生活道路

- 狭あい道路の整備については、建築確認時における適切な指導及び地域住民の理解と協力のもと、沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善を支援します。
- 通過交通が多く交通安全上課題のある生活道路及び歩行者の利用が多い通学路等の生活道路については、交通安全対策の実施を検討します。
- 歩行者が安全で快適に通行できるよう歩道を整備し、バリアフリー化や児童生徒のための通学路整備を行います。

☞関連するWSの取組みアイデア ・歩行者優先の道路づくり

検討路線

- 地元協力を得ながら、関連する未整備路線の進捗を踏まえつつ、早期整備を目指します。
- 香久山西部地区と周辺の既成市街地をつなぐ路線の整備を検討します。

(イ) 公共交通等

バス

- くるりんばすについては、利用者増に資するバス停付近における乗降環境の向上や、ソフト施策等の充実を図ります。
- 周辺市町のコミュニティバス等との連携による広域的な移動手段の強化や、新たな交通手段の導入について検討します。

☞関連するWSの取組みアイデア ・くるりんばすの利用向上 ・新しい移動手段の検討

(ウ) 歩行者・自転車ネットワーク

- 幹線道路の空間については、歩行者や自転車が安全・安心・快適に通行できるよう、歩車分離及びバリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した歩道整備を図ります。
- 生活道路については、通過・不要交通の進入や自動車の走行速度を抑制するような交通安全対策の実施を検討するとともに、必要に応じ歩道整備を図ります。

☞関連するWSの取組みアイデア ・歩行者優先の道路づくり

ウ 公園・緑地等の方針

(ア) 公園・緑地等

- 市民の憩いの場、健康増進、子育て支援等に必要な公園・緑地については、施設利用の安全確保を最優先に行いつつ、地域と協力して身近に利用できる公園・緑地等の確保を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・新設公園について、香久山西部地区内に整備すべき公園を最優先に検討
 - ・既存の公園について、計画的な公園遊具の修繕、入れ替え及び計画的な植栽剪定等の実施
- ☞関連するWSの取組みアイデア ・公園の美化 ・公園整備 ・地域の公園利用ルールづくり 等

(イ) 緑化

- 森林や農地等といった既存の緑を活用することで、健全で良質な緑を維持していくとともに、市民、行政等が協働して身近な生活空間に質の高い緑の創出に努めます。

〈具体的な整備方針〉

- ・民間施設の屋上緑化や壁面緑化等の促進、身近に質の高い緑がある良好な居住環境の創出
- ・緑の普及啓発につながる募金や各種講座を実施

☞関連するWSの取組みアイデア ・市民ができるイベント開催 ・田・畑の保全だけでなく活動もセットで考える

(ウ) 緑の保全

- 後世まで残していく緑については、それらが持つ機能を最大限に発揮できるように活用しながら保全していきます。

☞関連するWSの取組みアイデア ・生物多様性への配慮

- 食料安定供給の確保及びそのために必要となる農用地等を確保するため、農用地等の集約を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・重要な役割を担う農地の維持に向け、農地所有者と担い手の双方が主体となる農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画を活用し農用地等を集約化

エ 下水道及び河川等の方針

(ア) 下水道

- 快適な都市基盤整備を目指し、市街化の動向・見通しとの整合を図るとともに、生活環境保全に努めながら、災害時の対策、維持管理の効率性等を検討しつつ、整備を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・梅森処理区について、管渠の計画的な整備・維持管理
- ・南部処理区について、管渠の計画的な整備・維持管理

(イ) 河川等

- 地域内を流れる天白川については、環境に配慮しつつ河床掘削等の整備を促進します。
- 水とみどりの軸として地域住民の交流を促進するため、歩行者・自転車ネットワークとしての活用を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・雨水流出量の増加が見込まれる大規模開発等が行われる場合、治水環境に配慮した流出抑制対策
- ・天白川について、堤防道路を活用した歩行者・自転車ネットワークの整備
- ・行政が管理している河川・排水路の計画的な護岸修繕や定期的な草刈作業等
- ・老朽化した側溝や雨水排水施設の計画的な改修

☞関連するWSの取組みアイデア ・親水スポットの整備

オ 市街地整備の方針

(ア) 既成市街地の整備

- 古くからの市街地については、地区内に多くみられる幅員 4m 未満の狭あい道路の拡幅整備や、ポケットパーク、排水施設等の整備を図ります。
- 土地区画整理事業等により計画的な整備がなされた地区については、良好な居住環境を維持します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善の支援
- ・ 今後増加が予測される空家の利活用や、除却に向けた取組みを引き続き実施

(イ) 計画的市街地の整備

- 土地区画整理事業施行中の地区については、円滑に事業を促進し、早期の完了を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 香久山西部地区の公共施設の整備促進や保留地販売の促進支援等による既成市街地とつながりのあるまちづくりの支援

カ 都市防災の方針

- 平時から様々な分野での取組みを通じ、地域における自助・共助による防災・減災力を高め、災害に強い地域づくりを図ります。
- 既成市街地については、狭あい道路の解消・改善を順次進めつつ、地域内にみられる低・未利用地等を活用することにより、避難路や避難場所としての機能を有する生活道路や公園等を確保し、都市防災の強化を図ります。
- 災害対策基本法等の一部を改正する法律より、インフラ復旧・復興の迅速化についての方針が定められたことをうけ、迅速な復旧・復興に向けた対策を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 土砂災害特別警戒区域や洪水浸水想定区域等について、防災対策マップ等の誰にとってもわかりやすい資料の配布による市民への周知
- ・ 準住居地域については、原則として準防火地域を設定
- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善の支援
- ・ 学校施設等の公共施設の更新・維持管理等に向けた検討

👉 関連する WS の取組みアイデア ・ 防災意識の啓発

キ 都市景観形成の方針

(ア) 自然景観

- 地域内に広がる田園を主とする緑は、自然と共生する重要な資源であることから、これら自然景観を保全します。
- 東西方向に流れる天白川については、河川沿いのみどりを保全することで、より心地よい空間へと質的向上を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 一団の優良農地は、原則現在の農用地区域の指定を維持
- ・ その他の農地は、無秩序な都市的土地利用の進展を防ぎ、広がりまとまりのある田園景観を保全

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ 愛着がもてる体験や取り組み

(イ) まちなみ景観

- 古くからの市街地や集落については、沿道緑化の促進や歴史・文化への配慮、地区内に残る低・未利用地の活用等により、緑豊かなよいまちなみ景観を形成します。
- 計画的な整備がなされた地区や、今後面的な整備が予定されている地区については、敷地内緑化の促進や道路空間の緑化、現況の地形や植生を生かした面的整備の促進等により、憩いとやすらぎを感じられるような新しいまちなみ景観を形成します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善や、ブロック塀の除却・生け垣等の設置の支援
- ・ 建築物の建替え時における形態意匠のコントロールや、緑化促進を目的とした地区計画等の策定の支援
- ・ 計画的な整備が完了している地区の幹線道路等における街路樹植栽を維持・保全

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ 地域文化を高める

【参考】まちづくりについての小学校区別アンケート

(令和元年度実施)

20年後、住まいの小学校区がどのようなまちになってほしいかを尋ね、回答結果を整理しました。

	n=	低層住宅地区	中高層住宅地区	住宅団地地区	沿道商業地区	住商複合地区	住工複合地区	教育研究開発地区	森林保全地区	森林活用地区	農地・農業振興地区	工業地区
全体	(283)	23.3%	11.0%	39.2%	27.9%	37.5%	3.2%	9.5%	49.8%	39.6%	26.1%	3.2%
西小学校区	(38)	31.6%	10.5%	52.6%	26.3%	42.1%	0.0%	2.6%	55.3%	60.5%	39.5%	2.6%

※アンケート開催概要

2019年(令和元年)6月30日 にっしんわくわくミライ会議

2019年(令和元年)7月6日 にっしんわいわいフェスティバル

2019年(令和元年)9月15日 第18回にっしん夢まつり

全体より10ポイント以上高い項目	
全体より5ポイント以上高い項目	
全体より5ポイント以上低い項目	
全体より10ポイント以上低い項目	

【参考】地域別ワークショップにおける
主な地域のまちづくりの取組みアイデア

地域のまちづくりの取組みアイデアについては、道路や公園等の検討テーマごとに、市民、(市民と行政による)協働、行政という役割別に、取組みを整理しました。

	市民	協働	行政
道路	・交通マナー遵守徹底	・歩行者優先の道路づくり	・歩行者優先の道路づくり● ・渋滞対策
公共交通	・新しい移動手段の検討	・新しい移動手段の検討●	・くるりんばすの利用向上●●
安全・安心	・防災意識の啓発		・防災意識の啓発
土地利用		・誰もが便利な施設整備 ・駅周辺の再開発	・誰もが便利な施設整備 ・駅周辺の再開発
暮らしやすさ	・地域のコミュニティづくり	・学生と共に進めるまちづくり ・地域のコミュニティづくり●	
景観(歴史・文化)		・地域文化を高める	・地域文化を高める
公園	・利用マナーの向上	・公園の美化● ・公園の美化のPR ・地域の公園利用ルールづくり ・補助事業の活用	・公園整備●
緑・水	・市民ができるイベント開催 ・生物多様性への配慮	・愛着がもてる体験や取組み ・田・畑の保全だけでなく活動もセットで考える。●	・親水スポットの整備●

※●は、特に重要視して取組むべきアイデアとして、参加者に投票をしてもらった結果を表しています。

東 小学校区

(1) 地域の概況

南部の一部を除き大半が市街化調整区域です。地区南部を東西に名古屋鉄道豊田線が通り、地区南西端に米野木駅があります。市街化区域は、米野木駅北側が商業系用途及び住居系用途で、米野木駅東側一帯が工業系用途です。市街化調整区域は、中央を通る天白川沿岸及び東名以西が農地を中心とした土地利用、天白川の南北が丘陵地となっている自然豊かな地区です。また、大学、運動公園等の施設が立地しているほか、1970年代(昭和40~50年代)に開発された住宅団地が点在しています。

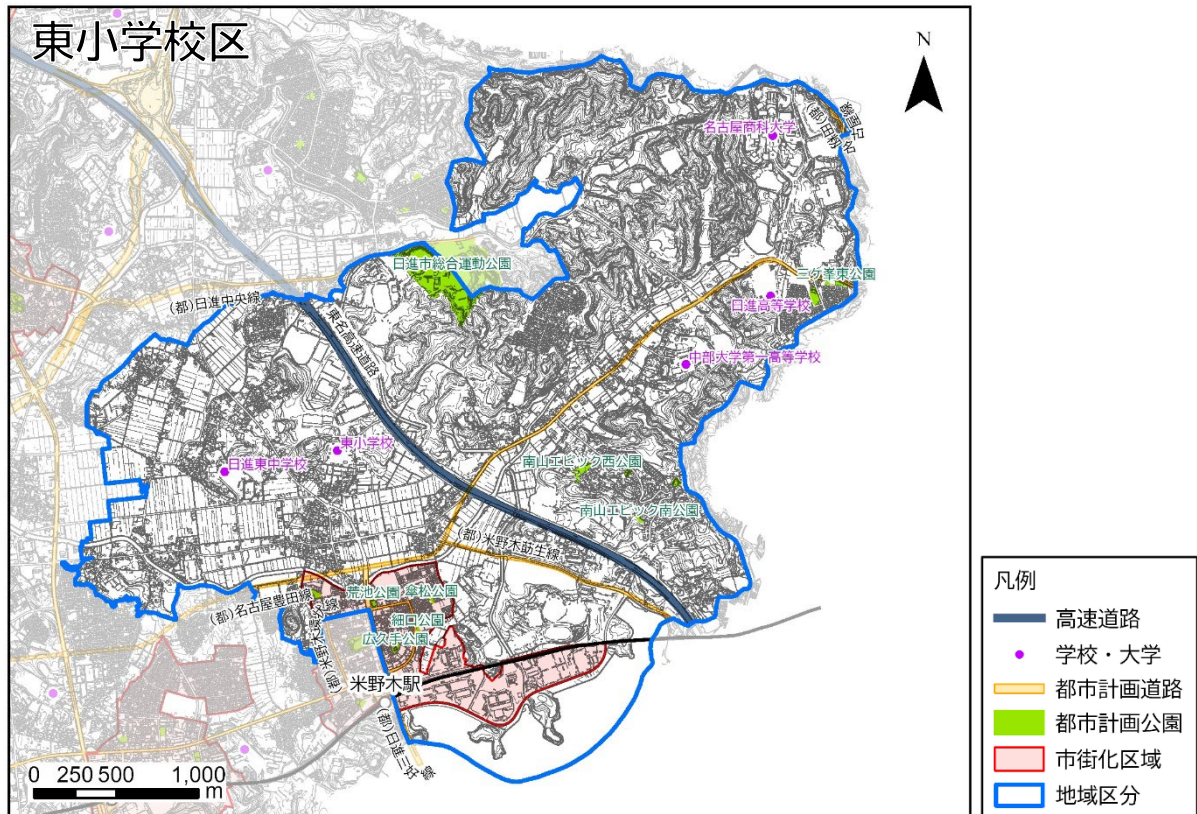


図 6-9 東小学校区の現況図

地域内の人口密度は、市街化調整区域が大半を占めるため、全域にわたり低い状況にありますが、米野木駅周辺については人口密度が高く、老年人口比率も低くなっています。

また、市内の他地域に比べると、全ての年齢層で人口が増加しており、なかでも生産年齢層が増加しています。

表 6-3 東小学校区の概況

面積 (ha)	1158.26	市街化区域 (ha)		人口密度 (人/ha)	8.03	
		市街化調整区域 (ha)	65.67			
人口	2019年 (人)	2022年 (人)	年齢比(2022年)		増減率(2019年-2022年)	
			東小学校区	市全体	東小学校区	市全体
0~18歳	1,729	1,743	18.7%	20.3%	0.8%	0.5%
19~64歳	5,175	5,283	56.8%	59.5%	2.1%	2.4%
65歳以上	2,244	2,275	24.5%	20.2%	1.4%	3.9%
合計	9,148	9,301	100.0%	100.0%	1.7%	2.3%

(資料:人口/日進市資料 面積/図上測量による)

- 0 計画の中間見直しにあたって
- 1 現況特性の把握
- 2 都市づくり上の課題の整理
- 3 都市づくりの理念と基本目標
- 4 将来都市構想
- 5 都市づくりの方針
- 6 地域別構想
- 7 計画の推進に向けて
- 8 参考資料

東小学校区

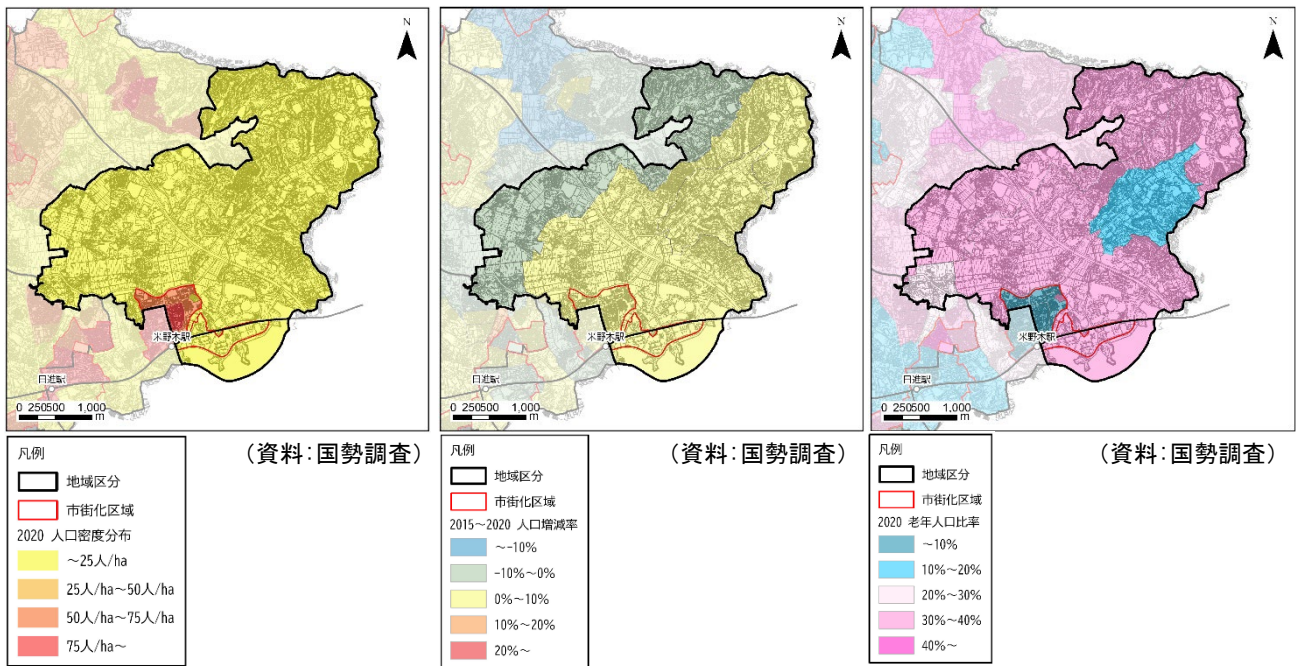


図 6-10 2020 年人口密度分布

図 6-11 2015 年～2020 年人口増減率

図 6-12 2020 年老年人口比率

(2) 地域の特徴

地域の魅力や資源である「強み」と、地域の問題・課題である「弱み」を把握するため、市民アンケート調査及び地域別ワークショップにおいて意見を伺いました。

【強み（魅力・資源）】

- ・道が広くて便利になった。
- ・高校や大学があって学生がたくさんいるのが良い。
- ・病院や高齢者施設が整備されているのが良い。
- ・東部丘陵地は、自然が豊かで生物が多い環境にあることが良い。
- ・愛知池には、景色を楽しむ遊歩道があって気持ちが良い。 等

【弱み（問題・課題）】

- ・歩道が少なく、街路樹も少ないので、歩行者にとって安全で快適でない。
- ・東部丘陵地を歩いて憩えるような歩道が少ない。
- ・くるりんばすが不便である。
- ・多くの場所に休耕田や竹林が増えている。
- ・学校が遠くて不便である。 等

(3) 地域のまちづくりの目標

本地域は、森林、農地、天白川や愛知池といった豊かな自然環境が残されています。また、名鉄米野木駅周辺に新しい住宅地や研究開発団地が形成されている一方、古くからの住宅団地や集落、大学や工業団地が分散しています。

本地域では、豊かな自然環境を守りながら、都市機能の充実により生活利便性を確保し、**市民がいつまでも元気に暮らせるまち**を目指します。

(4) 将来都市構造上の位置づけ

市街地ゾーン

- 市街化区域の縁辺部に広がる古くからの市街地については、良好な居住環境を有する市街地の維持・形成を図ります。
- 計画的に整備された市街地については、都市機能が充実した生活圏と、農業集落と調和した現在の土地利用及び居住環境の維持を図ります。

住宅団地ゾーン

- 市街化調整区域の住宅地については、現在の低層住宅を主体とした土地利用の維持・保全を図ります。

森林保全ゾーン

- 東部丘陵地に広がる森林については、積極的に維持・保全します。

森林活用ゾーン

- 三本木地区周辺に広がる森林については、保全を基本としつつも、豊かな自然環境に調和した市民の憩いや健康増進に寄与する空間としての有効活用を図ります。

農地・農業振興ゾーン

- 天白川沿いに広がる農業集落は、現在の土地利用の維持・保全を図ります。

産業ゾーン

- 機織池地区及び周辺、日進東部地区等については、環境負荷の少ない工業系土地利用を主体とした土地利用を図ります。

教育・研究ゾーン

- 研究施設や研修センター等が既に集積する米野木研究開発地区とそこに隣接する地区等については、今後とも現在の土地利用を維持します。

地域生活拠点

- 米野木駅周辺の既存商業地については、最寄りの商業施設をはじめ日常生活利便施設等の維持・形成を図ります。
- 居住誘導にも寄与する都市機能の維持・誘導を図り、都市機能の集積を図ります。

レクリエーション拠点

- 日進市総合運動公園については、現在の機能維持及び利用増進を図ります。

自然環境拠点

- 機織緑地については、市民と自然が共存する空間の創出を図ります。

地域振興拠点

- （仮称）東郷スマートインターチェンジ周辺については、周辺観光地へのアクセス利便性の向上と、地域産業支援や市民生活支援等の地域振興を図ります。

東小学校区

公共交通軸（鉄道）

- 地区の南部を東西方向に貫く名古屋鉄道豊田線を公共交通軸（鉄道）として位置づけます。

水とみどりの軸

- 天白川及び河川沿いの農地等を水とみどりの軸と位置づけ、歩行者・自転車ネットワークとして地域住民の交流を促進します。

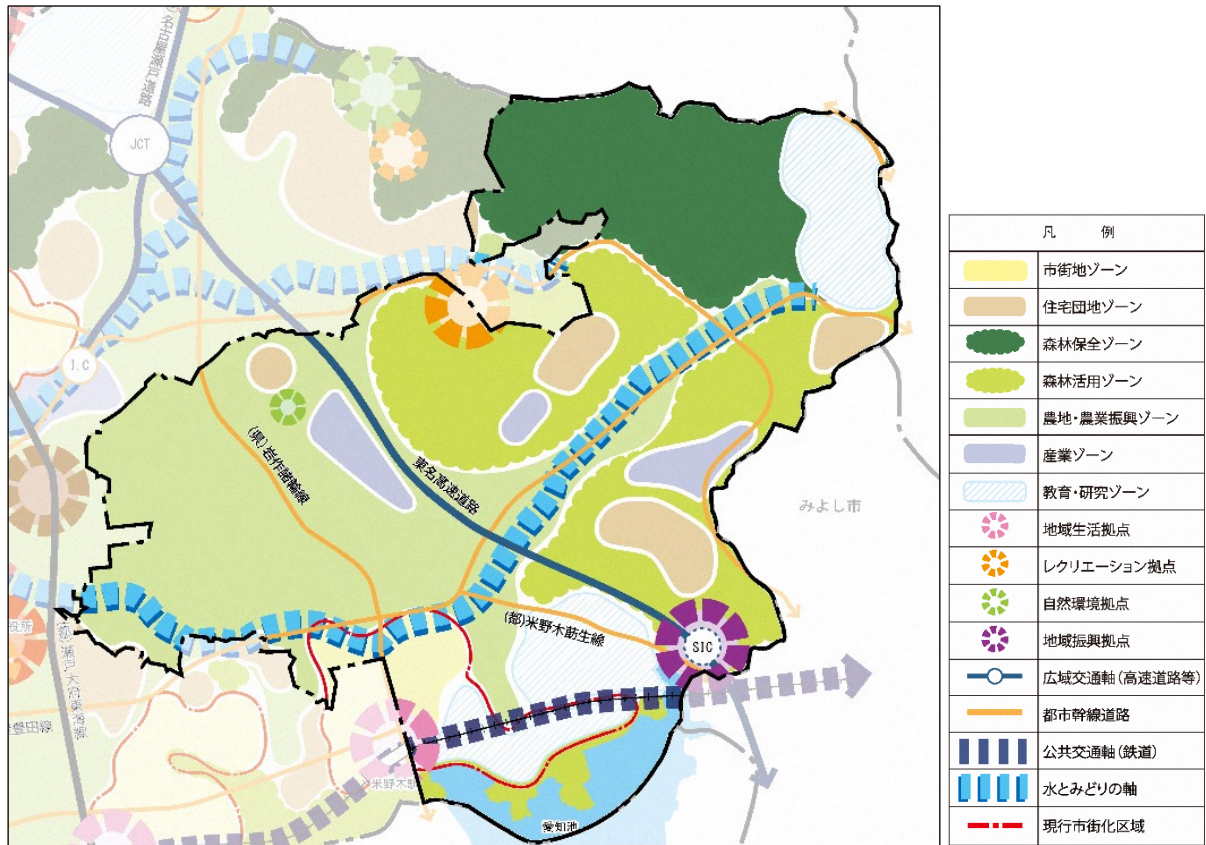


図 6-13 将来都市構造上の位置づけ（東小学校区）

(5) 地域のまちづくりの方針

ア 土地利用の方針

(ア) 市街化区域

低層住宅地区

- 計画的に整備された低層住宅を主体とした住宅市街地については、現在の居住環境を維持しつつ、周辺とのバランス・調和を図るため、低層住宅を主体とした土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持
- ・ 建築物の建替え時における形態意匠のコントロールを目的とした地区計画等の策定の支援

中高層住宅地区

- 計画的に整備された中高層住宅を主体とした住宅市街地については、公共交通網の利用促進や多様な都市機能の集積によるコンパクトな生活圏の構築のため、中高層住宅を主体とした土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持

住商複合地区

- 米野木駅周辺地区内の近隣商業地域については、周辺に立地する中高層住宅と一体となってコンパクトな生活圏の構築を図るため、生活利便施設等を主体とした土地利用を誘導します。

〈規制誘導の方針〉

- ・原則、現在の用途地域指定を維持

教育・研究地区

- 米野木研究開発地区については、現在の土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・現在の用途地域指定及び特別用途地区の指定を維持

(イ) 市街化調整区域**森林保全地区**

- 東部丘陵地に広がる森林については、積極的に維持・保全します。

〈規制誘導の方針〉

- ・保安林指定等の現在の法指定状況を維持、都市計画法上の位置づけを検討
- ・岩藤新池2期地区の整備については、県等との協議の推進
- ・保安林指定のない森林については、違法な開発の監視強化や新たな開発行為の抑制
- ・開発等が生じる場合、一定水準以上の緑地確保等の働きかけを推進

森林活用地区

- 三本木地区周辺については、保全を基本としつつも、豊かな自然環境に調和した市民の憩いや健康増進に寄与する空間としての有効活用を図ります。

〈規制誘導の方針〉

- ・保全を基本としつつも、森林との調和した施設の立地を図るべく、市街化調整区域における開発需要への対応について検討
- ・米野木駅南周辺については、今後の土地利用のあり方の検討

農地・農業振興地区

- 天白川沿いに広がる一団の農地と農地の中に点在する農業集落は、防災上及び都市生活を支える良好な自然環境の維持・保全の観点から、現在の土地利用を維持・保全します。

〈規制誘導の方針〉

- ・一団の優良農地について、原則、現在の農用地区域の指定を維持
- ・その他の農地について、無秩序な都市的土地利用の進展を抑制

☞関連するWSの取り組みアイデア ・水田・畑・竹林の有効活用

住宅団地地区

- 市街化調整区域において住宅地として開発がなされてきた地区については、現在の低層住宅を主体とした土地利用を維持・保全します。

〈規制誘導の方針〉

- ・建築物の建替え時における形態意匠のコントロールを目的とした市街化調整区域における地区計画等の活用を検討

東小学校区

産業地区

- 機織池地区及び周辺、日進東部地区等については、広域交通体系等へのアクセス利便性を活かし、環境負荷の少ない工業系土地利用（製造工場・研究開発施設、物流施設等）を主体とした土地利用を図ります。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 市街化調整区域における地区計画を活用した開発許可の適用等を検討

教育・研究地区

- 米野木研究開発地区に隣接する地区及び市街地外に立地する大学周辺については、現在の土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 現在の土地利用を基本としながら、市街化調整区域における地区計画を活用した開発許可の適用等を検討

土地利用検討地区

- (仮称) 東郷スマートインターチェンジ周辺については、地区計画の策定を含めた具体的な土地利用及び規制誘導に向けた方策を検討します。

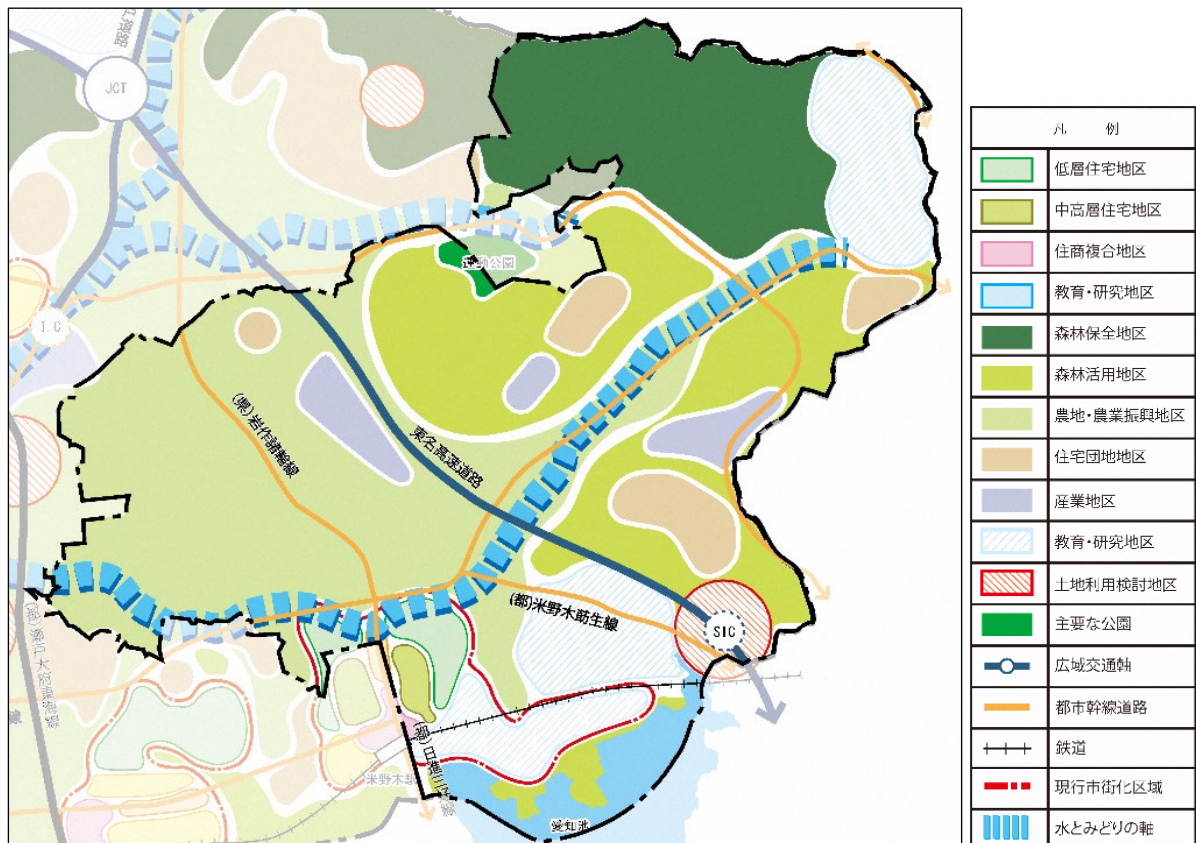


図 6-14 土地利用方針図（東小学校区）

イ 都市交通施設の方針

(ア) 幹線道路等

幹線道路

- (仮称)東郷スマートインターチェンジについては、整備を促進するため関係機関との協議・協力を図ります。
- 市街地相互の交通流動を円滑に処理するため、(都)米野木筋生線及び(都)名古屋豊田線の整備を促進します。
- 道路舗装等については、長寿命化計画に基づき、計画的な修繕を図ります。
- 補助幹線道路については、都市幹線道路等を補完し、日常的な生活圈相互を連絡する役割を担う路線を適切に配置し、整備を推進します。

生活道路

- 狭あい道路の整備にあたっては、建築確認時における適切な指導及び地域住民の理解と協力のもと、沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善を支援します。
- 通過交通が多く交通安全上課題のある生活道路及び歩行者の利用が多い通学路等の生活道路については、交通安全対策の実施を検討します。
- 歩行者が安全で快適に通行できるよう歩道を整備し、バリアフリー化や児童生徒のための通学路整備を行います。

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 歩行者優先の道路づくり

(イ) 公共交通等

鉄道・バス

- 米野木駅を中心として市内各拠点間の連携強化やアクセス性の向上を図り、鉄道事業者と協力して利用促進を検討します。
- くるりんばすについては、利用者増に資するバス停付近における乗降環境の向上や、ソフト施策等の充実を図ります。
- 周辺市町のコミュニティバス等との連携による広域的な移動手段の強化や、新たな交通手段の導入について検討します。

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ くるりんばすの利用向上

(ウ) 歩行者・自転車ネットワーク

- 幹線道路の空間については、歩行者や自転車が安全・安心・快適に通行できるよう、歩車分離及びバリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した歩道整備を図ります。
- 生活道路については、通過・不要交通の進入や自動車の走行速度を抑制するような交通安全対策の実施を検討するとともに、必要に応じ歩道整備を図ります。

ウ 公園・緑地等の方針

(ア) 公園・緑地等

- 日進市総合運動公園については、既存の機能を維持しつつ、緑の質を高めていきます。
- 市民の憩いの場、健康増進、子育て支援等に必要な公園・緑地については、施設利用の安全確保を最優先に行いつつ、地域と協力して身近に利用できる公園・緑地等の確保を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 既存の公園について、計画的な公園遊具の修繕、入れ替え及び計画的な植栽剪定等の実施

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 多様で目的に合った公園づくり ・ 公園整備 等

(イ) 緑化

- 森林や農地等といった既存の緑を活用することで、健全で良質な緑を維持していくとともに、市民、行政等が協働して身近な生活空間に質の高い緑の創出に努めます。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 民間施設の屋上緑化や壁面緑化等の促進、身近に質の高い緑がある良好な居住環境の創出
- ・ 緑の普及啓発につながる募金や各種講座を実施

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ あじさいの植栽 ・ 田んぼやビオトープの活用

(ウ) 緑の保全

- 後世まで残していく緑については、それらが持つ機能を最大限に発揮できるように活用しながら保全していきます。
- 東部丘陵地については、生物多様性の保全を意識し、積極的に維持・保全します。
- 機織緑地については、市民と自然が共存する空間の創出を図ります。
- 食料安定供給の確保及びそのために必要となる農用地等を確保するため、農用地等の集約を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 森林環境譲与税を活用した森林の整備・保全
- ・ 重要な役割を担う農地の維持に向け、農地所有者と担い手の双方が主体となる農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画を活用し農用地等を集約化

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 東部丘陵地の自然公園的活用

エ 下水道及び河川等の方針

(ア) 下水道

- 快適な都市基盤整備を目指し、市街化の動向・見通しとの整合を図るとともに、生活環境保全に努めながら、災害時の対策、維持管理の効率性等を検討しつつ、整備を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 南部処理区について、管渠の計画的な整備・維持管理

(イ) 河川等

- 地域内を流れる天白川については、環境に配慮しつつ河床掘削等の整備を促進します。
- 水とみどりの軸として地域住民の交流を促進するため、歩行者・自転車ネットワークとしての活用を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 雨水流出量の増加が見込まれる大規模開発等が行われる場合、治水環境に配慮した流出抑制対策
- ・ 特定都市河川流域に指定される境川流域では、確実な総合治水対策
- ・ 天白川の堤防道路を活用した歩行者・自転車ネットワークの整備
- ・ 行政が管理している河川・排水路の計画的な護岸修繕や定期的な草刈作業等
- ・ 老朽化した側溝や雨水排水施設の計画的な改修

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ 川の活用

オ 市街地整備の方針

(ア) 既成市街地の整備

- 古くからの市街地については、地区内に多くみられる幅員4m未満の狭あい道路の拡幅整備や、ポケットパーク、排水施設等の整備を図ります。
- 土地区画整理事業等により計画的な整備がなされた地区については、良好な居住環境を維持します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善の支援
- ・ 今後増加が予測される空家の利活用や、除却に向けた取り組みを引き続き実施

カ 都市防災の方針

- 平時から様々な分野での取組みを通じ、地域における自助・共助による防災・減災力を高め、災害に強い地域づくりを図ります。
- 既成市街地については、狭あい道路の解消・改善を順次進めつつ、地域内にみられる低・未利用地等を活用することにより、避難路や避難場所としての機能を有する生活道路や公園等を確保し、都市防災の強化を図ります。
- 災害対策基本法等の一部を改正する法律より、インフラ復旧・復興の迅速化についての方針が定められたことをうけ、迅速な復旧・復興に向けた対策を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 土砂災害特別警戒区域や洪水浸水想定区域等について、防災対策マップ等の誰にとってもわかりやすい資料の配布による市民への周知
- ・ (仮称) 東郷スマートインターチェンジを整備し、幹線道路ネットワークの強化及び交通ルートの多重性確保
- ・ 近隣商業地域及び準住居地域については、原則として準防火地域を設定
- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善の支援
- ・ 学校施設等の公共施設の更新・維持管理等に向けた検討

☞ 関連するWSの取組みアイデア ・ 地域防災対策

キ 都市景観形成の方針

(ア) 自然景観

- 地域内に広がる田園や東部丘陵地、機織緑地を主とする緑は、自然と共生する重要な資源であることから、これら自然景観を保全します。
- 東西方向に流れる天白川については、河川沿いのみどりを保全することで、より心地よい空間へと質的向上を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 一団の優良農地は、原則現在の農用地区域の指定を維持
- ・ その他の農地は、無秩序な都市的土地利用の進展を防ぎ、広がりまとまりのある田園景観を保全
- ・ 東部丘陵地の保安林指定等の現在の法指定状況の維持や都市計画法上の位置づけを検討
- ・ 東部丘陵地の無秩序な都市的土地利用や開発行為の抑制

(イ) まちなみ景観

- 古くからの市街地や集落については、沿道緑化の促進や地区内に残る低・未利用地の活用等により、緑豊かなまちなみ景観を形成します。
- 計画的な整備がなされた地区や、今後面的な整備が予定されている地区については、敷地内緑化の促進や道路空間の緑化、現況の地形や植生を生かした面的整備の促進等により、憩いとやすらぎを感じられるような新しいまちなみ景観を形成します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善や、ブロック塀の除却・生け垣等の設置の支援
- ・ 建築物の建替え時における形態意匠のコントロールや、緑化促進を目的とした地区計画等の策定の支援
- ・ 計画的な整備が完了している地区の幹線道路等における街路樹植栽を維持・保全

☞ 関連するWSの取組みアイデア ・ 地域文化を高める ・ 環境・芸術による新たな文化創出 等

【参考】まちづくりについての小学校区別アンケート

(令和元年度実施)

20年後、住まいの小学校区がどのようなまちになってほしいかを尋ね、回答結果を整理しました。

	n=	低層住宅地区	中高層住宅地区	住宅団地地区	一般住宅地区	沿道商業地区	住商複合地区	住工複合地区	教育研究開発地区	森林保全地区	森林活用地区	農地・農業振興地区	工業地区
全体	(283)	23.3%	11.0%	39.2%	27.9%	37.5%	3.2%	9.5%	49.8%	39.6%	26.1%	3.2%	
東小学校区	(22)	27.3%	4.5%	45.5%	40.9%	40.9%	13.6%	13.6%	54.5%	50.0%	31.8%	4.5%	

※アンケート開催概要

2019年(令和元年)6月30日 にっしんわくわくミライ会議

2019年(令和元年)7月6日 にっしんわいわいフェスティバル

2019年(令和元年)9月15日 第18回にっしん夢まつり

全体より10ポイント以上高い項目	
全体より5ポイント以上高い項目	
全体より5ポイント以上低い項目	
全体より10ポイント以上低い項目	

【参考】 地域別ワークショップにおける
主な地域のまちづくりの取り組みアイデア

地域のまちづくりの取り組みアイデアについては、道路や公園等の検討テーマごとに、市民、(市民と行政による)協働、行政という役割別に、取り組みを整理しました。

	市民	協働	行政
道路		・歩行者優先の道路づくり	・歩行者優先の道路づくり
公共交通			・くるりんばすの利用向上
安全・安心		・地域防災対策	
土地利用	・水田・畑・竹林の有効活用	・水田・畑・竹林の有効活用 ●	・水田・畑・竹林の有効活用
暮らしやすさ	・ため池の活用 ●	・エコな暮らしの推進 ●●	
景観(歴史・文化)	・地域文化を高める	・環境・芸術による新たな文化創出 ●●	
公園	・緑地活用	・多様で目的に合った公園づくり ・東部丘陵地の自然公園的活用	・公園整備
緑・水	・若い力の導入 ● ・田んぼやビオトープの活用 ●	・市民・行政・専門家・企業等の協働 ・環境教育の啓発 ・企業との協働 ・あじさいの植栽	・緑地保全・現計画の検証 ● ・川の活用 ・ハード整備

※●は、特に重要視して取り組むべきアイデアとして、参加者に投票をしてもらった結果を表しています。

- ① 計画の中間見直しにあたって
- ② 現況特性の把握
- ③ 都市づくり上の課題の整理
- ④ 都市づくりの理念と基本目標
- ⑤ 将来都市構造
- ⑥ 都市づくりの方針
- ⑦ 地域別構想
- ⑧ 計画の推進に向けて
- ⑨ 参考資料

北 小学校区

(1) 地域の概況

市街化区域が地域全体の1/3程度で、岩根地区等の住宅地がまとまって形成しており、周囲を取り囲むように市街化調整区域があります。市街化区域は、(都)瀬戸大府東海線沿道が商業系用途である以外は住居系用途となっており、面整備した住宅団地と古くからの集落地が混在しています。また、岩崎川沿岸には農地や丘陵地があり、一部の丘陵地には、住宅団地、大学が立地しています。

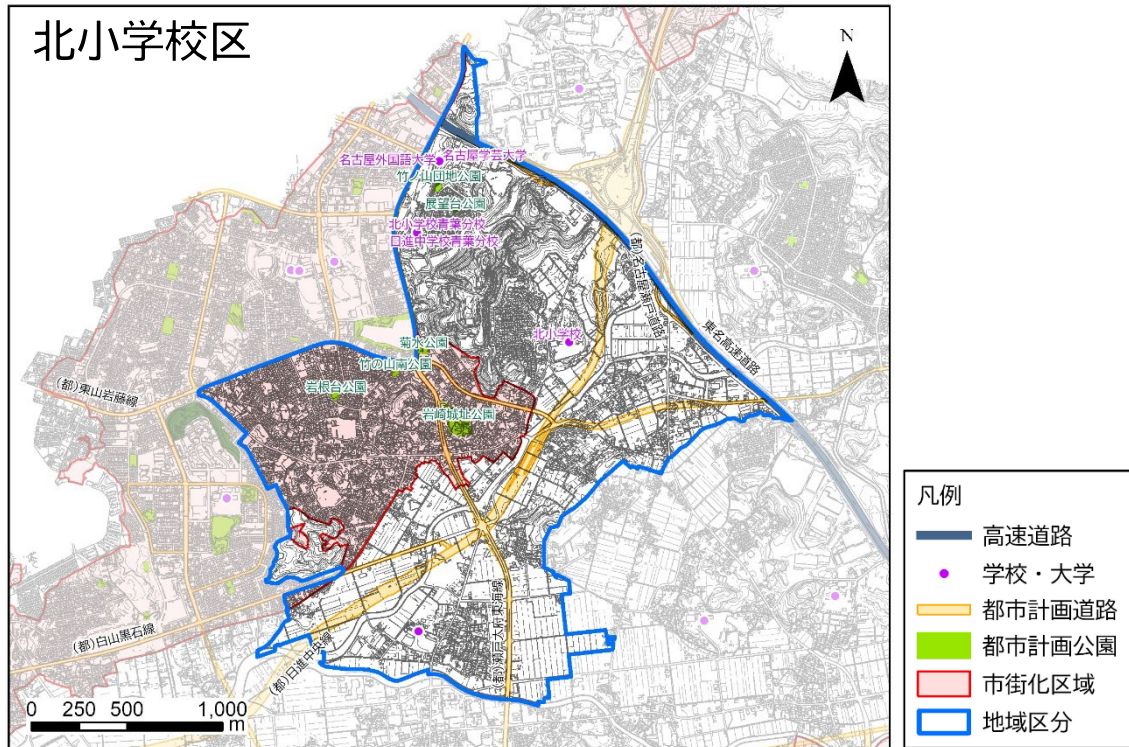


図 6-15 北小学校区の現況図

地域内の人口密度は、市街化区域は市街化調整区域に比べて若干高くなっていますが、全域にわたり低密度な市街地が形成されています。

また、市内の他地域に比べると、高齢者層において人口が減少しています。また、18歳以下の若年層及び生産年齢層の人口については増加しています。

表 6-4 北小学校区の概況

面積 (ha)	451.45	市街化区域 (ha)		人口密度 (人/ha)	23.95	
		市街化区域 (ha)	110.01			市街化調整区域 (ha)
人口	2019年 (人)	2022年 (人)	年齢比(2022年)		増減率(2019年-2022年)	
			北小学校区	市全体	北小学校区	市全体
0~18歳	2,266	2,310	21.4%	20.3%	1.9%	0.5%
19~64歳	5,652	5,843	54.0%	59.5%	3.4%	2.4%
65歳以上	2,662	2,658	24.6%	20.2%	-0.2%	3.9%
合計	10,580	10,811	100.0%	100.0%	2.2%	2.3%

(資料:人口/日進市資料 面積/図上測量による)

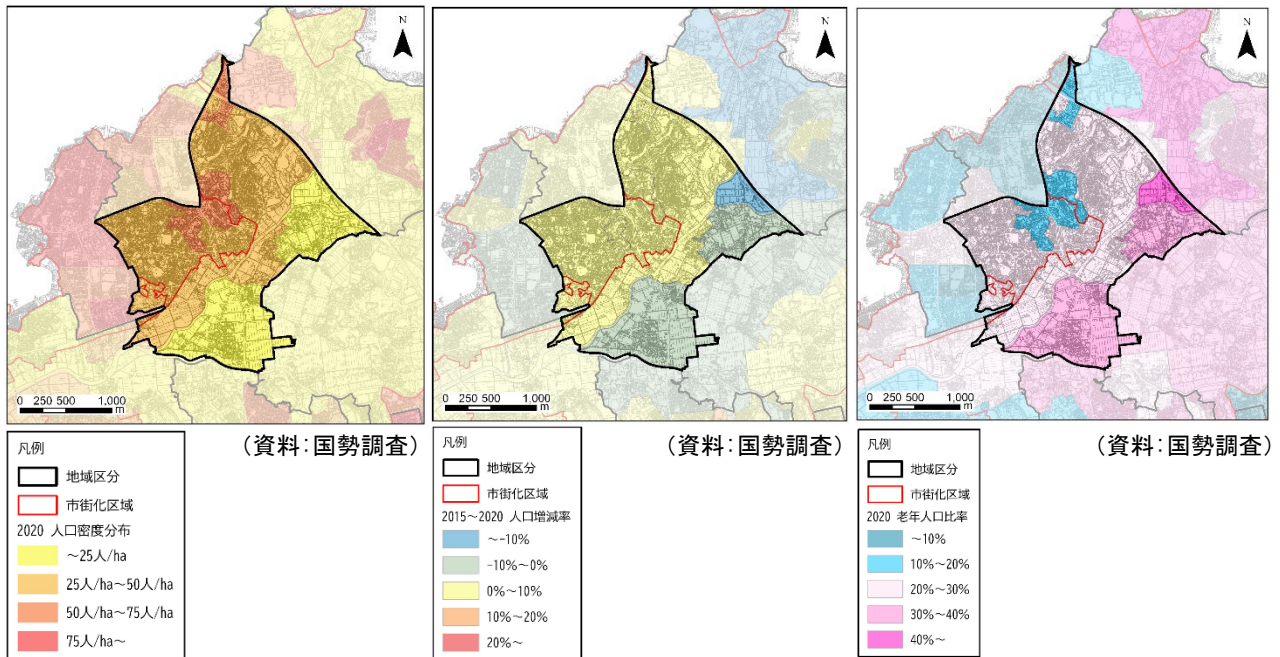


図 6-16 2020 年人口密度分布 図 6-17 2015 年~2020 年人口増減率 図 6-18 2020 年老年人口比率

(2) 地域の特徴

地域の魅力や資源である「強み」と、地域の問題・課題である「弱み」を把握するため、市民アンケート調査及び地域別ワークショップにおいて意見を伺いました。

【強み (魅力・資源)】

- ・名古屋への交通の便が比較的良好い。
- ・岩崎地区の北部は、店が多く、買い物に便利である。
- ・名古屋外国語大や名古屋学芸大が立地しており、学生が多い。
- ・岩崎城址公園は眺めが良く、緑が多い。また、歴史があり、桜がきれいである。
- ・里山が保全されていて良い。 等

【弱み (問題・課題)】

- ・交通量が多く、交差点での渋滞が多い。
- ・狭い道路が多く、通学路でも車の通行量が多いため危ない。
- ・くるりんばすが一方通行で不便である。
- ・買物が不便な地域がある。
- ・岩崎川の自然、桜の並木があまり活かされていない。 等

(3) 地域のまちづくりの目標

本地域は、南北方向に(都)瀬戸大府東海線が通り、自動車交通での利便性に優れた地域です。一方で、岩崎川、御嶽山、北高上緑地といった自然や、岩崎城、妙仙寺山門、白山古墳といった歴史を感じられる場所があります。

本地域では、自然や歴史を大切にしながら、充実した都市基盤を活かし、**広域から人が集いにぎわうまち**を目指します。

(4) 将来都市構造上の位置づけ

市街地ゾーン

- 市街化区域の縁辺部に広がる古くからの市街地については、良好な居住環境を有する市街地の維持・形成を図ります。
- 計画的に整備された市街地については、都市機能が充実した生活圏と、農業集落と調和した現在の土地利用及び居住環境の維持を図ります。

新市街地形成ゾーン

- 現在の市街化区域内において一団の低・未利用地が残されている地区については、地権者との合意形成を図り、計画的な市街地の形成を目指します。

住宅団地ゾーン

- 市街化調整区域の住宅地については、現在の低層住宅を主体とした土地利用の維持・保全を図ります。

森林保全ゾーン

- 御嶽山周辺等に広がる森林については、積極的に維持・保全します。

農地・農業振興ゾーン

- 岩崎川沿いに広がる一団の農地と農地の中に点在する農業集落は、現在の土地利用の維持・保全を図ります。

産業ゾーン

- 今後整備予定の（都）名古屋瀬戸道路IC周辺については、環境負荷の少ない工業系土地利用を主体とした土地利用を図ります。

教育・研究ゾーン

- 市街地外に立地する大学周辺については、今後とも現在の土地利用を維持します。

にぎわい・ふれあい拠点


- 道の駅マチテラス日進及び田園フロンティアパーク本郷農園を中心とした地区については、地域振興を促進し、持続的に市民が集い、交流できる場の形成を図ります。

自然環境拠点

- 北高上緑地については、市民と自然が共存する空間の創出を図ります。

公共交通軸（バス）

- 公共施設が集積する市中心部と、鉄道駅を結ぶ東西方向の軸線として、公共交通軸（バス）を位置づけます。

水とみどりの軸 

- 岩崎川及び河川沿いの農地等を水とみどりの軸と位置づけ、歩行者・自転車ネットワークとして地域住民の交流を促進します。

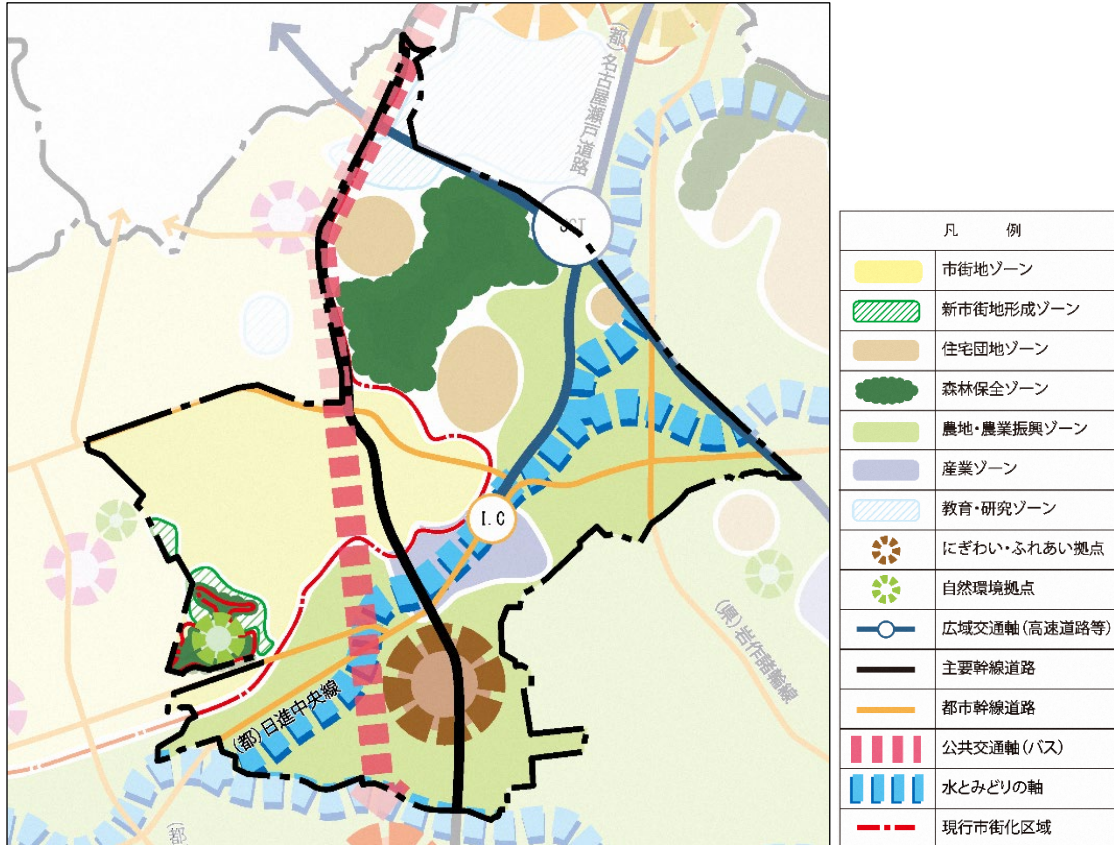


図 6-19 将来都市構造上の位置づけ（北小学校区）

0 計画の中間見直しにあたって

1 現況特性の把握

2 都市づくり上の課題の整理

3 都市づくりの理念と基本目標

4 将来都市構造

5 都市づくりの方針

6 地域別構想

7 計画の推進に向けて

8 参考資料

(5) 地域のまちづくりの方針

ア 土地利用の方針

(ア) 市街化区域

低層住宅地区

- 計画的に整備された低層住宅を主体とした住宅市街地については、現在の居住環境を維持しつつ、周辺とのバランス・調和を図るため、低層住宅を主体とした土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持
- ・ 建築物の建替え時における形態意匠のコントロールを目的とした地区計画等の策定の支援
- ・ 一団の低・未利用地が残されている地区における暫定用途の解消

一般住宅地区

- 市街化区域の縁辺部に広がる農業集落を発祥とする住宅市街地については、農業集落としてのたたずまいを残しつつ居住環境の維持・改善を図ります。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持
- ・ 狭あい道路の多くみられる地区等について、基盤施設の整備・改善を図ることによる土地利用がしやすい環境の整備
- ・ 地区内の低・未利用地について、日常的な生活利便機能や、多様な世代のニーズに対応した居住機能に着目した土地利用の誘導

☞ 関連する WS の取り組みアイデア ・ 地域コミュニティを高める

沿道住商複合地区

- (都)瀬戸大府東海線沿道については、自動車でのアクセス利便性に優れ、沿道型商業施設の立地の優位性が高いことから、商業施設等を主体とした土地利用を誘導します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 沿道型の商業施設を主体とした土地利用に向け、原則、現在の用途地域指定を維持

(イ) 市街化調整区域

森林保全地区

- 御嶽山周辺等に広がる森林については、積極的に維持・保全します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 保安林指定等の現在の法指定状況を維持、都市計画法上の位置づけを検討
- ・ 保安林指定のない森林については、違法な開発の監視強化や新たな開発行為の抑制
- ・ 開発等が生じる場合、一定水準以上の緑地確保等の働きかけを推進

農地・農業振興地区

- 岩崎川沿いに広がる一団の農地と農地の中に点在する農業集落は、防災上及び都市生活を支える良好な自然環境の維持・保全の観点から、現在の土地利用を維持・保全します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 一団の優良農地について、原則、現在の農用地区域の指定を維持
- ・ その他の農地について、無秩序な都市的土地利用の進展を抑制

住宅団地地区

- 市街化調整区域において住宅地として開発がなされてきた地区については、現在の低層住宅を主体とした土地利用の維持・保全を図ります。

〈規制誘導の方針〉

- ・建築物の建替え時における形態意匠のコントロールを目的とした市街化調整区域における地区計画等の活用を検討

☞関連するWSの取組みアイデア ・地域コミュニティを高める

産業地区

- 今後整備予定の（都）名古屋瀬戸道路 IC 周辺については、環境負荷の少ない工業系土地利用（製造工場・研究開発施設、物流施設等）を主体とした土地利用を図ります。

〈規制誘導の方針〉

- ・市街化調整区域における地区計画を活用した開発許可の適用等を検討

教育・研究地区

- 市街地外に立地する大学周辺については、今後とも現在の土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・市街化調整区域における地区計画を活用した開発許可の適用等を検討

土地利用検討地区

- 道の駅マチテラス日進及び田園フロンティアパーク本郷農園周辺地区については、拠点としての魅力を高めるような土地利用のあり方を検討します。

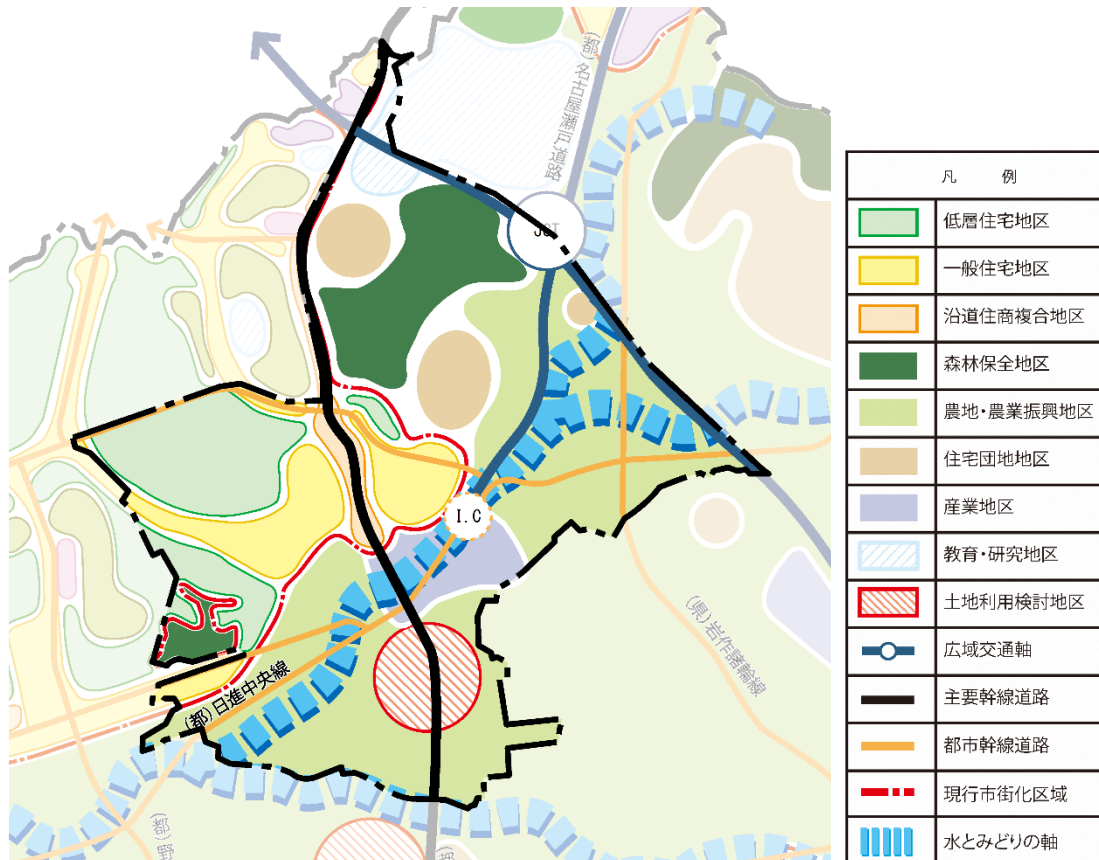


図 6-20 土地利用方針図（北小学校区）

0 計画の中間見直しにあたって
1 現況特性の把握
2 都市づくり上の課題の整理
3 都市づくりの理念と基本目標
4 将来都市構造
5 都市づくりの方針
6 地域別構想
7 計画の推進に向けて
8 参考資料

イ 都市交通施設の方針

(ア) 幹線道路等

幹線道路

- (都)名古屋瀬戸道路の南進については、整備を促進するため関係機関との協議・協力を図ります。
- (都)瀬戸大府東海線は、適切な維持・管理が行われるように関係機関との協議・協力を図ります。
- 市街地相互の交通流動を円滑に処理するため、(都)日進中央線の整備を促進します。
- 道路舗装等については、長寿命化計画に基づき、計画的な修繕を図ります。
- 補助幹線道路については、都市幹線道路等を補完し、日常的な生活圏相互を連絡する役割を担う路線を適切に配置し、整備を推進します。

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 歩行者優先の道路づくり ・ 渋滞対策

生活道路

- 狭あい道路の整備にあたっては、建築確認時における適切な指導及び地域住民の理解と協力のもと、沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善を支援します。
- 通過交通が多く交通安全上課題のある生活道路及び歩行者の利用が多い通学路等の生活道路については、交通安全対策の実施を検討します。
- 歩行者が安全で快適に通行できるよう歩道を整備し、バリアフリー化や児童生徒のための通学路整備を行います。

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 歩行者優先の道路づくり

検討路線

- 地元協力を得ながら、関連する未整備路線の進捗を踏まえつつ、早期整備を目指します。

(イ) 公共交通等

バス

- くるりんばすについては、利用者増に資するバス停付近における乗降環境の向上や、ソフト施策等の充実を図ります。
- 周辺市町のコミュニティバス等との連携による広域的な移動手段の強化や、新たな交通手段の導入について検討します。

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ くるりんばすの利用向上

(ウ) 歩行者・自転車ネットワーク

- 岩崎川については、堤防道路を活用した歩行者・自転車ネットワークの整備を推進するとともに、沿道におけるポケットパーク整備や空き地の活用等を検討します。
- 幹線道路の空間について、歩行者や自転車が安全・安心・快適に通行できるよう、歩車分離及びバリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した歩道整備を図ります。
- 生活道路について、通過・不要交通の進入や自動車の走行速度を抑制するような交通安全対策の実施を検討するとともに、必要に応じ歩道整備を図ります。

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 岩崎川の公園化

ウ 公園・緑地等の方針

(ア) 公園・緑地等

- 市民の憩いの場、健康増進、子育て支援等に必要な公園・緑地については、施設利用の安全確保を最優先に行いつつ、地域と協力して身近に利用できる公園・緑地等の確保を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 既存の公園について、計画的な公園遊具の修繕、入れ替え及び計画的な植栽剪定等の実施

☞ 関連するWSの取組みアイデア ・ 公園のマップづくりやワークショップ ・ 公園整備 等

(イ) 緑化

- 森林や農地等といった既存の緑を活用することで、健全で良質な緑を維持していくとともに、市民、行政等が協働して身近な生活空間に質の高い緑の創出に努めます。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 民間施設の屋上緑化や壁面緑化等の促進、身近に質の高い緑がある良好な居住環境の創出
- ・ 緑の普及啓発につながる募金や各種講座を実施

(ウ) 緑の保全

- 後世まで残していく緑については、それらが持つ機能を最大限に発揮できるように活用しながら保全していきます。
- 北高上緑地については、市民と自然が共存する空間の創出を図ります。
- 食料安定供給の確保及びそのために必要となる農用地等を確保するため、農用地等の集約を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 森林環境譲与税を活用した森林の整備・保全
- ・ 重要な役割を担う農地の維持に向け、農地所有者と担い手の双方が主体となる農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画を活用し農用地等を集約化

エ 下水道及び河川等の方針

(ア) 下水道

- 快適な都市基盤整備を目指し、市街化の動向・見通しとの整合を図るとともに、生活環境保全に努めながら、災害時の対策、維持管理の効率性等を検討しつつ、整備を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 北部処理区について、管渠の計画的な整備・維持管理
- ・ 南部処理区について、管渠の計画的な整備・維持管理

(イ) 河川等

- 市管理の河川等については、計画的な整備を図ります。
- 水とみどりの軸として地域住民の交流を促進するため、歩行者・自転車ネットワークとしての活用を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 雨水量の増加が見込まれる大規模開発等が行われる場合、治水環境に配慮した流出抑制対策
- ・ 岩崎川の堤防道路を活用した歩行者・自転車ネットワークの整備
- ・ 行政が管理している河川・排水路の計画的な護岸修繕や定期的な草刈作業等
- ・ 老朽化した側溝や雨水排水施設の計画的な改修

☞ 関連するWSの取組みアイデア ・ 岩崎川の公園化 ・ 川の管理 ・ 体験、イベントの実施 等

オ 市街地整備の方針

(ア) 既成市街地の整備

- 古くからの市街地については、地区内に多くみられる幅員 4m 未満の狭あい道路の拡幅整備や、ポケットパーク、排水施設等の整備を図ります。
- 土地区画整理事業等により計画的な整備がなされた地区については、良好な居住環境を維持します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善の支援
- ・ 今後増加が予測される空家の利活用や、除却に向けた取組みを引き続き実施

(イ) 低・未利用地の整備

- 一団の低・未利用地が残されている岩崎町新ラ田・北高上地区については、新たな市街地形成に向け、地権者の土地利用意向等を踏まえて、活用のあり方を検討します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 良好な市街地の形成に向けた暫定用途地域の解消

カ 都市防災の方針

- 平時から様々な分野での取組みを通じ、地域における自助・共助による防災・減災力を高め、災害に強い地域づくりを図ります。
- 既成市街地については、狭あい道路の解消・改善を順次進めつつ、地域内にみられる低・未利用地等を活用することにより、避難路や避難場所としての機能を有する生活道路や公園等を確保し、都市防災の強化を図ります。
- 災害対策基本法等の一部を改正する法律より、インフラ復旧・復興の迅速化についての方針が定められたことをうけ、迅速な復旧・復興に向けた対策を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 土砂災害特別警戒区域や洪水浸水想定区域等について、防災対策マップ等の誰にとってもわかりやすい資料の配布による市民への周知
- ・ 準住居地域については、原則として準防火地域を設定
- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善の支援
- ・ 学校施設等の公共施設の更新・維持管理等に向けた検討

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 地域防犯対策

キ 都市景観形成の方針

(ア) 自然景観

- 地域内に広がる田園や御嶽山周辺の森林、北高上緑地を主とする緑は、自然と共生する重要な資源であることから、これら自然景観を保全します。
- 東西方向に流れる岩崎川については、河川沿いのみどりを保全することで、より心地よい空間へと質的向上を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 一団の優良農地は、原則現在の農用地区域の指定を維持
- ・ その他の農地は、無秩序な都市的土地利用の進展を防ぎ、広がりともとまりのある田園景観を保全

(イ) まちなみ景観

- 古くからの市街地や集落については、沿道緑化の促進や歴史・文化への配慮、地区内に残る低・未利用地の活用等により、緑豊かなまちなみ景観を形成します。
- 計画的な整備がなされた地区や、今後面的な整備が予定されている地区については、敷地内緑化の促進や道路空間の緑化、現況の地形や植生を生かした面的整備の促進等により、憩いとやすらぎを感じられるような新しいまちなみ景観を形成します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善や、ブロック塀の除却・生け垣等の設置の支援
- ・ 建築物の建替え時における形態意匠のコントロールや、緑化促進を目的とした地区計画等の策定の支援
- ・ 計画的な整備が完了している地区の幹線道路等における街路樹植栽を維持・保全

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ 地域文化を高める

(令和元年度実施)

【参考】まちづくりについての小学校区別アンケート

20年後、住まいの小学校区がどのようなまちになってほしいかを尋ね、回答結果を整理しました。

	n=	低層住宅地区	中高層住宅地区	住宅団地地区	一般住宅地区	沿道商業地区	住商複合地区	住工複合地区	教育研究開発地区	森林保全地区	森林活用地区	農地・農業振興地区	工業地区
全体	(283)	23.3%	11.0%	39.2%	27.9%	37.5%	3.2%	9.5%	49.8%	39.6%	26.1%	3.2%	
北小学校区	(41)	22.0%	9.8%	36.6%	14.6%	41.5%	2.4%	9.8%	48.8%	31.7%	24.4%	4.9%	

※アンケート開催概要

2019年(令和元年)6月30日 にっしんわくわくミライ会議

2019年(令和元年)7月6日 にっしんわいわいフェスティバル

2019年(令和元年)9月15日 第18回にっしん夢まつり

全体より10ポイント以上高い項目	
全体より5ポイント以上高い項目	
全体より5ポイント以上低い項目	
全体より10ポイント以上低い項目	

【参考】地域別ワークショップにおける 主な地域のまちづくりの取組みアイデア

地域のまちづくりの取組みアイデアについては、道路や公園等の検討テーマごとに、市民、(市民と行政による)協働、行政という役割別に、取組みを整理しました。

	市民	協働	行政
道路		・歩行者優先の道路づくり●	・道の駅をつくる前に渋滞対策
公共交通		・くるりんばすの利用向上	・くるりんばすの利用向上●●
安全・安心	・地域防犯対策●	・地域防犯対策●	・防災防犯対策
土地利用		・地域の居場所づくり	
暮らしやすさ	・地域コミュニティを高める	・地域コミュニティを高める●	・住宅の確保
景観(歴史・文化)	・地域文化を高める●	・地域文化を高める	
公園	・公園利用者による手入れ ・楽しいイベントの実施 ・公園の紹介	・公園のマップづくりやワークショップ ・公園にキャッチフレーズや名称をつける	・公園整備 ・公園の管理運営 ・市民からの相談への対応
緑・水	・子どもが楽しめるイベント	・岩崎川の公園化● ・体験、イベントの実施● ・意識啓発の推進 ・観光資源として位置づけ●	・トイレや橋の設置 ・川の管理

※●は、特に重要視して取組むべきアイデアとして、参加者に投票をしてもらった結果を表しています。

南 小学校区

(1) 地域の概況

地域の南部に市街化区域があり、中央部から北部一帯が市街化調整区域です。西側の市街化区域は、名古屋鉄道豊田線日進駅の西に位置し、概ね都市基盤が整備された低層系住宅地域です。東側の市街化区域は、日進駅北東に位置し、地区全体の都市基盤が整備された低層系住宅地域です。市街化調整区域は、概ね平坦であり、北側に日進市役所を中心とする公共施設が集積しています。

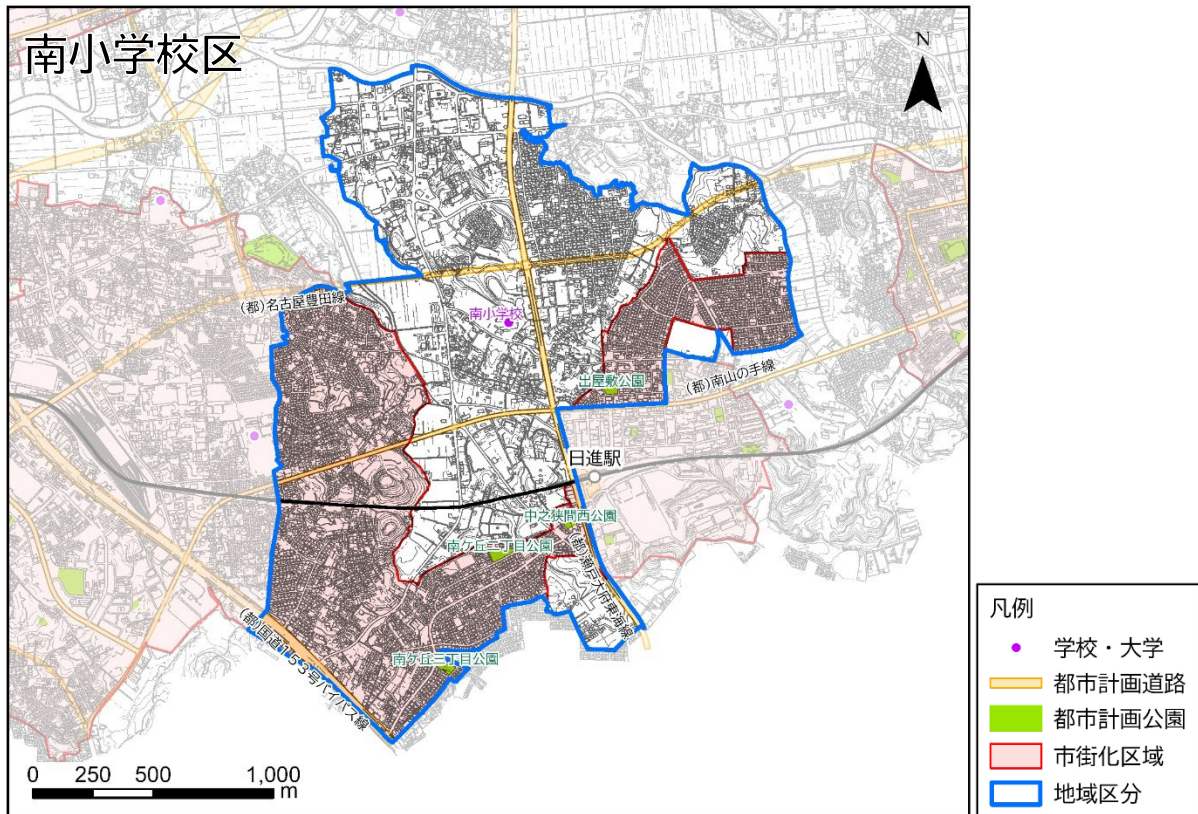


図 6-21 南小学校区の現況図

地域内の人口密度は、市街化区域内では、概ね 50 人/ha 以上の高い密度の市街地が形成されています。

また、市内の他地域に比べると、高齢者層において人口が減少しており、18 歳以下の若年層及び生産年齢層の人口は増加しています。

表 6-5 南小学校区の概況

面積 (ha)	348.14	市街化区域 (ha)		人口密度 (人/ha)	43.97	
		市街化区域 (ha)	149.07			
		市街化調整区域 (ha)				
		199.07				
人口	2019年 (人)	2022年 (人)	年齢比(2022年)		増減率(2019年-2022年)	
			南小学校区	市全体	南小学校区	市全体
0~18歳	2,984	3,076	20.1%	20.3%	3.1%	0.5%
19~64歳	8,290	8,575	56.0%	59.5%	3.4%	2.4%
65歳以上	3,675	3,658	23.9%	20.2%	-0.5%	3.9%
合計	14,949	15,309	100.0%	100.0%	2.4%	2.3%

(資料:人口/日進市資料 面積/図上測量による)

0 計画の中間見直しにあたって

1 現況特性の把握

2 都市づくり上の課題の整理

3 都市づくりの理念と基本目標

4 将来都市構造

5 都市づくりの方針

6 地域別構想

7 計画の推進に向けて

8 参考資料

南小学校区

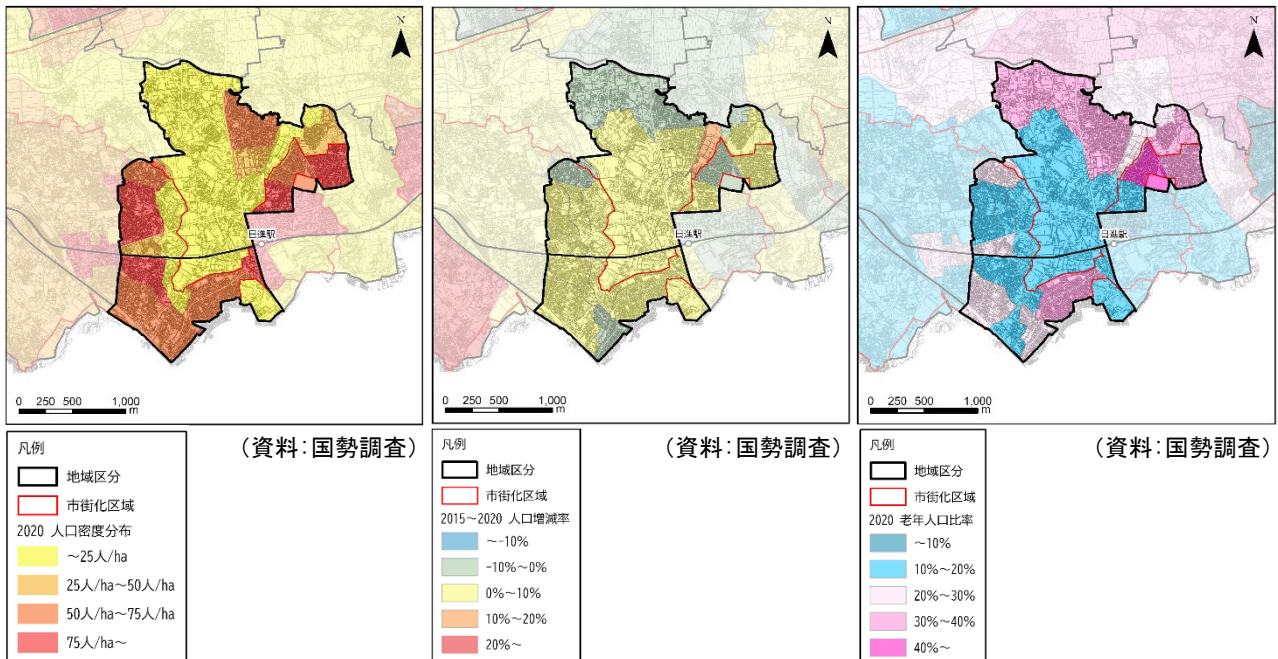


図 6-22 2020 年人口密度分布 図 6-23 2015 年～2020 年人口増減率 図 6-24 2020 年老年人口比率

(2) 地域の特徴

地域の魅力や資源である「強み」と、地域の問題・課題である「弱み」を把握するため、市民アンケート調査及び地域別ワークショップにおいて意見を伺いました。

【強み（魅力・資源）】

- ・市役所等の市の中心機能が集まっていて便利である。
- ・くるりんばすは赤池駅に行く手段として便利である。
- ・マンションが少ないので、景観が良く空が見渡せる。
- ・宝泉寺を中心に風情ある町並がある。
- ・折戸川沿いは自然が多く、桜並木があつて良い。 等

【弱み（問題・課題）】

- ・国道 153 号は、交通量が多くて渋滞が発生している。
- ・狭い道路が多く、通学の自転車の通行量が多いため危ない。
- ・空家や空き店舗が増えている。
- ・地域内の緑がどんどん少なくなっている。
- ・大きな公園がなく、子どもたちが遊べる場所がない。 等

(3) 地域のまちづくりの目標

本地域は、南側に名鉄日進駅、北側には市役所や市民会館、スポーツセンターをはじめ数多くの公共公益施設が立地しています。また、地域北側では天白川が流れ、西側の折戸川沿いには豊かな農地が広がっています。

本地域では、多くの公共公益施設を利用する市民や来訪者の交流を促進するとともに、地域に点在する自然に気軽にふれあい、**様々な交流が生まれるまち**を目指します。

(4) 将来都市構造上の位置づけ

市街地ゾーン

- 計画的に整備された市街地については、都市機能が充実した生活圏と、農業集落と調和した現在の土地利用及び居住環境の維持を図ります。

新市街地形成ゾーン

- 現在の市街化区域内において一団の低・未利用地が残されている折戸鎌ヶ寿地区については、地権者との合意形成を図り、計画的な市街地の形成を目指します。
- 日進駅西地区については、良好な居住環境を創出するため、地区計画等を検討しながら、民有地緑化を進める等により緑豊かな住宅地の形成を図ります。

住宅団地ゾーン

- 市街化調整区域の住宅地については、現在の低層住宅を主体とした土地利用の維持・保全を図ります。

森林活用ゾーン

- 地区内に広がる森林については、保全を基本としつつも、豊かな自然環境に調和した市民の憩いや健康増進に寄与する空間としての有効活用を図ります。

農地・農業振興ゾーン

- 天白川沿いに広がる農業集落は、現在の土地利用の維持・保全を図ります。

公共施設集積拠点

- 市役所周辺地区については、市役所庁舎、図書館、市民会館、スポーツセンター等の公共施設が立地していることに加え、交通拠点としての役割も担っているため、今後も集積した公共施設等の機能を維持します。

地域生活拠点

- 日進駅周辺の既存商業地については、最寄りの商業施設をはじめ日常的な生活利便施設等の維持・形成を図ります。
- 居住誘導にも寄与する都市機能の維持・誘導を図り、都市機能の集積を図ります。

レクリエーション拠点


- 日進市スポーツセンターについては、現在の機能維持及び利用増進を図ります。

公共交通軸（鉄道）

- 地区の南部を東西方向に貫く名古屋鉄道豊田線を公共交通軸（鉄道）として位置づけます。

公共交通軸（バス）

- 公共施設が集積する市中心部と、鉄道駅を結ぶ軸線として、公共交通軸（バス）を位置づけます。

水とみどりの軸 

- 天白川及び河川沿いの農地等を水とみどりの軸と位置づけ、歩行者・自転車ネットワークとして地域住民の交流を促進します。

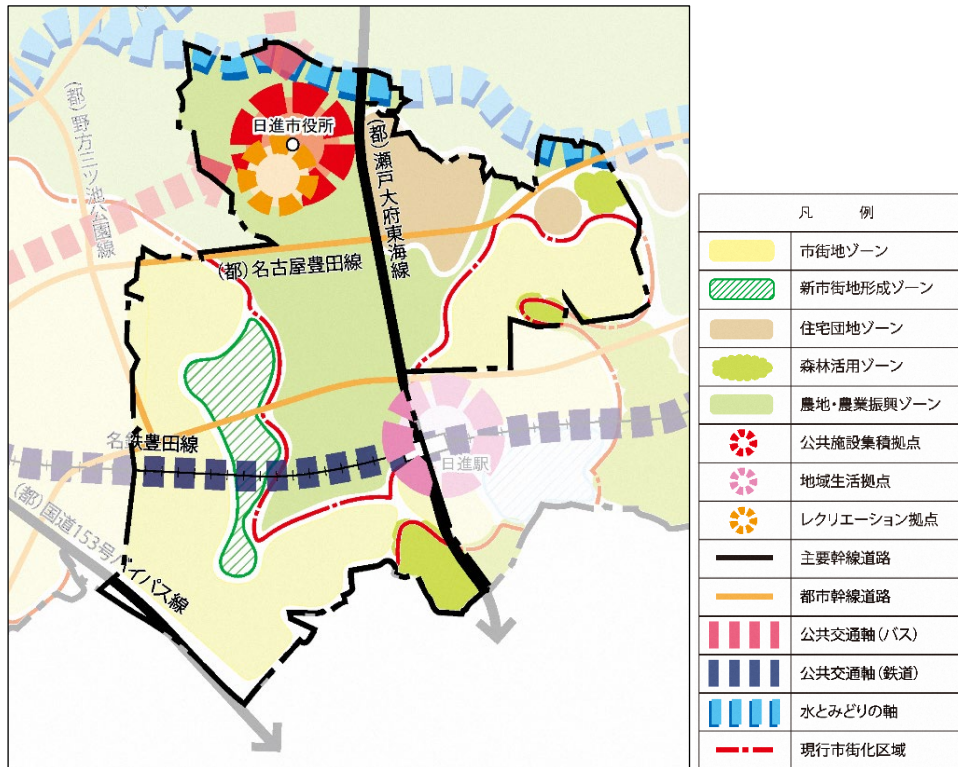


図 6-25 将来都市構造上の位置づけ（南小学校区）

(5) 地域のまちづくりの方針

ア 土地利用の方針

(ア) 市街化区域

低層住宅地区

- 計画的に整備され低層住宅を主体とした住宅市街地については、現在の居住環境を維持しつつ、周辺とのバランス・調和を図るため、低層住宅を主体とした土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持
- ・ 建築物の建替え時における形態意匠のコントロールを目的とした地区計画等の策定の支援
- ・ 日進駅西地区については、民有地緑化を進める地区計画等を検討
- ・ 一団の低・未利用地が残されている折戸町鎌ヶ寿地区における暫定用途の解消

一般住宅地区

- 土地区画整理事業により計画的に整備された住宅市街地については、今後も現在の住居系土地利用を主体とした土地利用を維持します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 原則、現在の用途地域指定を維持
- ・ 地区内の低・未利用地について、日常的な生活利便機能や、多様な世代のニーズに対応した居住機能に着目した土地利用の誘導

(イ) 市街化調整区域

森林活用地区

- 地区内に広がる森林については、保全を基本としつつも、豊かな自然環境に調和した市民の憩いや健康増進に寄与する空間としての有効活用を図ります。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 保全を基本としつつも、森林との調和した施設の立地を図るべく、市街化調整区域における開発需要への対応について検討

農地・農業振興地区

- 天白川沿いに広がる一団の農地と農地の中に点在する農業集落は、防災上及び都市生活を支える良好な自然環境の維持・保全の観点から、現在の土地利用を維持・保全します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 一団の優良農地について、原則、現在の農用地区域の指定を維持
- ・ その他の農地について、無秩序な都市的土地利用の進展を抑制

住宅団地地区

- 市街化調整区域において住宅地として開発がなされてきた地区については、現在の低層住宅を主体とした土地利用を維持・保全します。

〈規制誘導の方針〉

- ・ 建築物の建替え時における形態意匠のコントロールを目的とした市街化調整区域における地区計画等の活用を検討

土地利用検討地区

- 市役所周辺については、集積した公共施設等の機能の維持に向けた方策を検討します。

☞ 関連するWSの取組みアイデア ・ 市役所周辺のにぎわいづくり ・ 既存の公共施設の利活用

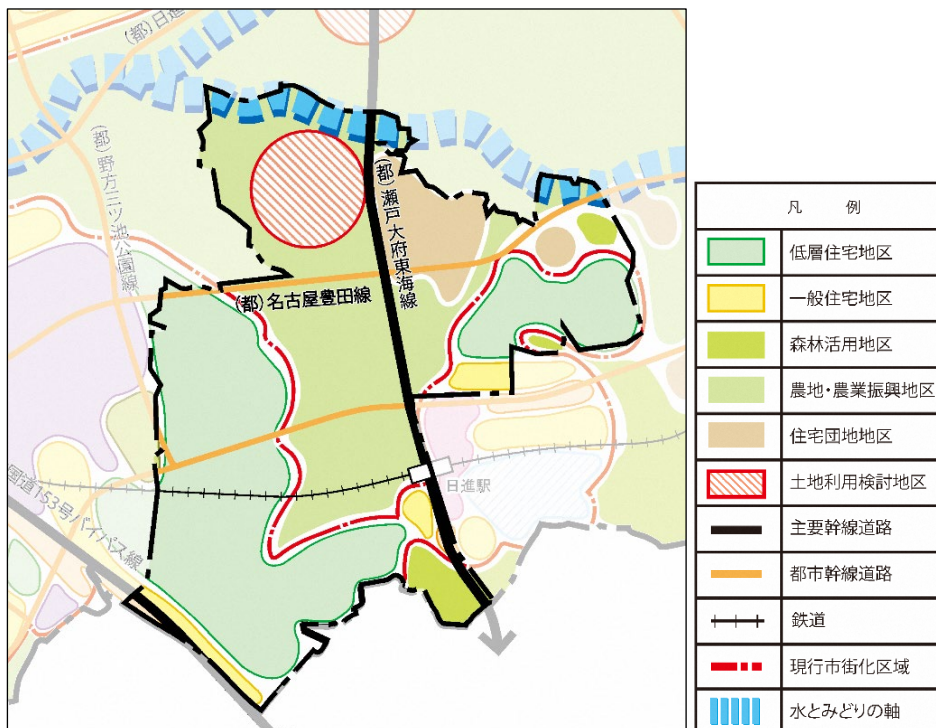


図 6-26 土地利用方針図 (南小学校区)

0 計画の中間見直しにあたって

1 現況特性の把握

2 都市づくり上の課題の整理

3 都市づくりの理念と基本目標

4 将来都市構造

5 都市づくりの方針

6 地域別構想

7 計画の推進に向けて

8 参考資料

イ 都市交通施設の方針

(ア) 幹線道路等

幹線道路

- (都)国道153号バイパス線及び(都)瀬戸大府東海線は、適切な維持・管理が行われるように関係機関との協議・協力を図ります。
- 市街地相互の交通流動を円滑に処理するため、(都)名古屋豊田線の整備を促進します。
- 道路舗装等については、長寿命化計画に基づき、計画的な修繕を図ります。

☞関連するWSの取組みアイデア ・ 渋滞対策

生活道路

- 狭あい道路の整備にあたっては、建築確認時における適切な指導及び地域住民の理解と協力のもと、沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善を支援します。
- 通過交通が多く交通安全上課題のある生活道路及び歩行者の利用が多い通学路等の生活道路については、交通安全対策の実施を検討します。
- 歩行者が安全で快適に通行できるよう歩道を整備し、バリアフリー化や児童生徒のための通学路整備を行います。

☞関連するWSの取組みアイデア ・ 歩行者優先の道路づくり

検討路線

- 地元協力を得ながら、関連する未整備路線の進捗を踏まえつつ、早期整備を目指します。

☞関連するWSの取組みアイデア ・ 将来像を共有する ・ できることから実践する

(イ) 公共交通等

鉄道・バス

- 日進駅を中心として市内各拠点間の連携強化やアクセス性の向上を図り、鉄道事業者と協力して利用促進を検討します。
- くるりんばすについては、利用者増に資するバス停付近における乗降環境の向上や、ソフト施策等の充実を図ります。
- 周辺市町のコミュニティバス等との連携による広域的な移動手段の強化や、新たな交通手段の導入について検討します。

☞関連するWSの取組みアイデア ・ 生活に必要な移動手段の確保

公共交通結節点

- 日進駅については、運行時間の相互調整等鉄道とバスの連絡強化に向けた事業者への働きかけや、関係機関との協議・調整を図ります。

☞関連するWSの取組みアイデア ・ 公共交通を便利にする

(ウ) 歩行者・自転車ネットワーク

- 幹線道路の空間については、歩行者や自転車が安全・安心・快適に通行できるよう、歩車分離及びバリアフリー・ユニバーサルデザインに配慮した歩道整備を図ります。
- 生活道路については、通過・不要交通の進入や自動車の走行速度を抑制するような交通安全対策の実施を検討するとともに、必要に応じ歩道整備を図ります。

☞関連するWSの取組みアイデア ・ 長い散策コースづくり ・ 自転車道の整備 等

ウ 公園・緑地等の方針

(ア) 公園・緑地等

- 日進市スポーツセンターについては、既存の機能を維持しつつ、緑の質を高めていきます。
- 市民の憩いの場、健康増進、子育て支援等に必要な公園・緑地については、施設利用の安全確保を最優先に行いつつ、地域と協力して身近に利用できる公園・緑地等の確保を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 新設公園について、日進駅西地区内に整備すべき公園を最優先に検討
- ・ 既存の公園について、計画的な公園遊具の修繕、入れ替え及び計画的な植栽剪定等の実施

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ シンボルとなる公園づくり ・ 快適な公園づくり 等

(イ) 緑化

- 森林や農地等といった既存の緑を活用することで、健全で良質な緑を維持していくとともに、市民、行政等が協働して身近な生活空間に質の高い緑の創出に努めます。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 民間施設の屋上緑化や壁面緑化等の促進、身近に質の高い緑がある良好な居住環境の創出
- ・ 緑の普及啓発につながる募金や各種講座を実施

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ ホタルの保全と農地活用 ・ 駅前緑化の推進 ・ 民地の緑の管理 等

(ウ) 緑の保全

- 後世まで残していく緑については、それらが持つ機能を最大限に発揮できるように活用しながら保全していきます。
- 食料安定供給の確保及びそのために必要となる農用地等を確保するため、農用地等の集約を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 森林環境譲与税を活用した森林の整備・保全
- ・ 重要な役割を担う農地の維持に向け、農地所有者と担い手の双方が主体となる農業経営基盤強化促進法に基づく地域計画を活用し農用地等を集約化

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ 鎮守の森の保全

エ 下水道及び河川等の方針

(ア) 下水道

- 快適な都市基盤整備を目指し、市街化の動向・見通しとの整合を図るとともに、生活環境保全に努めながら、災害時の対策、維持管理の効率性等を検討しつつ、整備を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 南部処理区について、管渠の計画的な整備・維持管理

(イ) 河川等

- 地域内を流れる天白川については、環境に配慮しつつ河床掘削等の整備を促進します。
- 水とみどりの軸として地域住民の交流を促進するため、歩行者・自転車ネットワークとしての活用を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 新規の大規模開発における調整池について、治水環境に配慮した流出抑制対策
- ・ 特定都市河川流域に指定される境川流域では、確実な総合治水対策
- ・ 天白川の堤防道路を活用した歩行者・自転車ネットワークの整備
- ・ 行政が管理している河川・排水路の計画的な護岸修繕や定期的な草刈作業等
- ・ 老朽化した側溝や雨水排水施設の計画的な改修

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ 水と緑のネットワークづくり

オ 市街地整備の方針

(ア) 既成市街地の整備

- 古くからの市街地については、地区内に多くみられる幅員 4m 未満の狭あい道路の拡幅整備や、ポケットパーク、排水施設等の整備を図ります。
- 土地区画整理事業等により計画的な整備がなされた地区については、良好な居住環境を維持します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善の支援
- ・ 今後増加が予測される空家の利活用や、除却に向けた取組みを引き続き実施

(イ) 計画的市街地の整備

- 土地区画整理事業施行中の地区については、円滑に事業を促進し、早期の完了を図ります。
- 土地区画整理事業計画中の地区については、具体的な組合の設立と事業化の支援を行います。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 日進駅西地区の公共施設の整備促進や保留地販売の促進支援等
- ・ 日進駅西地区の緑豊かで良好な居住環境を創出するため、民有地緑化を進める地区計画等を検討
- ・ 折戸鎌ヶ寿地区の土地区画整理組合の設立支援

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 緑と公園を活かした区画整理事業

(ウ) 低・未利用地の整備

- 一回の低・未利用地が残されている折戸町鎌ヶ寿地区については、新たな市街地形成に向け、地権者の土地利用意向等を踏まえて、活用のあり方を検討します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 良好な市街地の形成に向けた暫定用途地域の解消

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 土地利用の調査

カ 都市防災の方針

- 平時から様々な分野での取組みを通じ、地域における自助・共助による防災・減災力を高め、災害に強い地域づくりを図ります。
- 既成市街地については、狭あい道路の解消・改善を順次進めつつ、地域内にみられる低・未利用地等を活用することにより、避難路や避難場所としての機能を有する生活道路や公園等を確保し、都市防災の強化を図ります。
- 災害対策基本法等の一部を改正する法律より、インフラ復旧・復興の迅速化についての方針が定められたことをうけ、迅速な復旧・復興に向けた対策を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 土砂災害特別警戒区域や洪水浸水想定区域等について、防災対策マップ等の誰にとってもわかりやすい資料の配布による市民への周知
- ・ 近隣商業地域及び準住居地域については、原則として準防火地域を設定
- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善の支援
- ・ 学校施設等の公共施設の更新・維持管理等に向けた検討

☞ 関連する WS の取組みアイデア ・ 地域防災対策

キ 都市景観形成の方針

(ア) 自然景観

- 地域内に広がる田園や折戸川を主とする緑は、自然と共生する重要な資源であることから、これら自然景観を保全します。
- 東西方向に流れる天白川については、河川沿いのみどりを保全することで、より心地よい空間へと質的向上を図ります。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 一団の優良農地は、原則現在の農用地区域の指定を維持
- ・ その他の農地は、無秩序な都市的土地利用の進展を防ぎ、広がりまとまりのある田園景観を保全

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ 良好な景観づくり

(イ) まちなみ景観

- 古くからの市街地や集落については、沿道緑化の促進や地区内に残る低・未利用地の活用等により、緑豊かなまちなみ景観を形成します。
- 計画的な整備がなされた地区や、今後面的な整備が予定されている地区については、敷地内緑化の促進や道路空間の緑化、現況の地形や植生を生かした面的整備の促進等により、憩いとやすらぎを感じられるような新しいまちなみ景観を形成します。

〈具体的な整備方針〉

- ・ 沿道建築物の建替え等に併せた狭あい道路の解消・改善や、ブロック塀の除却・生け垣等の設置の支援
- ・ 建築物の建替え時における形態意匠のコントロール、緑化促進を目的とした地区計画等の策定の支援
- ・ 計画的な整備が完了している地区の幹線道路等における街路樹植栽を維持・保全

☞ 関連するWSの取り組みアイデア ・ 良好な景観づくり

【参考】まちづくりについての小学校区別アンケート

(令和元年度実施)

20年後、住まいの小学校区がどのようなまちになってほしいかを尋ね、回答結果を整理しました。

	n=	低層住宅地区	中高層住宅地区	住宅団地地区	沿道商業地区	住商複合地区	住工複合地区	教育研究開発地区	森林保全地区	森林活用地区	農地・農業振興地区	工業地区
全体	(283)	23.3%	11.0%	39.2%	27.9%	37.5%	3.2%	9.5%	49.8%	39.6%	26.1%	3.2%
南小学校区	(50)	28.0%	4.0%	54.0%	24.0%	40.0%	8.0%	12.0%	42.0%	42.0%	34.0%	8.0%

※アンケート開催概要

2019年(令和元年)6月30日 にしんわくわくミライ会議

2019年(令和元年)7月6日 にしんわいわいフェスティバル

2019年(令和元年)9月15日 第18回にしん夢まつり

全体より10ポイント以上高い項目	
全体より5ポイント以上高い項目	
全体より5ポイント以上低い項目	
全体より10ポイント以上低い項目	

【参考】地域別ワークショップにおける
主な地域のまちづくりの取り組みアイデア

地域のまちづくりの取り組みアイデアについては、道路や公園等の検討テーマごとに、市民、(市民と行政による)協働、行政という役割別に、取り組みを整理しました。

	市民	協働	行政
道路		<ul style="list-style-type: none"> 将来像を共有する ●●● できることから実践する 	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者優先の道路づくり ●● 渋滞対策
公共交通		<ul style="list-style-type: none"> 自転車道の整備 生活に必要な移動手段の確保 ●● 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車道の整備 公共交通を便利にする ●●
安全・安心		<ul style="list-style-type: none"> 地域防災対策 	
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 既存の公共施設の利活用 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所周辺のにぎわいづくり 既存の公共施設の利活用 ●● 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の公共施設の利活用 土地利用の調査 ●
暮らしやすさ			
景観(歴史・文化)			<ul style="list-style-type: none"> 良好な景観づくり
公園	<ul style="list-style-type: none"> ホタルの保全と農地活用 快適な公園づくり ● 駅前緑化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> シンボルとなる公園づくり ● 緑と公園を活かした区画整理事業 ● 	<ul style="list-style-type: none"> 歩いて行ける公園づくり プランづくりの場や機会づくり
緑・水	<ul style="list-style-type: none"> 地域で管理 プランづくり 鎮守の森の保全 サポーターの募集 	<ul style="list-style-type: none"> 民地の緑の管理 ● 水と緑のネットワークづくり ● 	<ul style="list-style-type: none"> 「緑の住環境都市」に向けた取り組み 緑に関わる仕組みづくり プランづくりの場や機会づくり 長い散策コースづくり

※●は、特に重要視して取り組むべきアイデアとして、参加者に投票をしてもらった結果を表しています。